

## No.4 >>> Contents

●年頭所感 いよいよ中盤戦にさしかかった ..... (財)大日本蚕糸会 会頭 高木 賢	1
●提携支援センターから 「男のきもの」は特徴ある蚕品種「プラチナボーイ」 .....	2
提携支援センター活動日誌No.4 .....	5
純国産絹マーク使用許諾について(平成20年度第3次分) .....	6
コーディネーター活動の紹介② .....	8
●今月の話題 「ふい絹」による商品開発の取組み —中間検討会の概要— ... (財)大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 上席研究員 清水 重人	10
●国内情報 化粧品におけるシルク素材の応用について ..... (株)カネボウ化粧品 製品開発研究所 佐野 章子	13
●海外情報 中国最大の繭生産基地“広西壮族自治区”の養蚕事情 ..... 財団法人群馬県蚕糸振興協会 齋藤 敏弘	20
●トピックス 国内産地情報、海外情報(中国) .....	25
●シルク豆辞典 シルクの豆辞典(19) 桑の薬効(2) —桑根白皮— ..... 信州大学名誉教授 嶋崎 昭典	28
●イベント情報	31
●登録コーディネーター一覧	33
●蚕糸関係博物館一覧	35
●統計資料	36

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)



## いよいよ中盤戦にさしかかった

(財) 大日本蚕糸会  
会 頭 高 木 賢

皆さん、新年おめでとうございます。

昨年2月、大日本蚕糸会に蚕糸絹業提携支援センターが設置され、緊急対策事業が発足してから早くも1年近くが経過しました。事業の立ち上がりの時でもあり、若干のとまどいや試行錯誤があったりして、関係の方々にはいろいろご迷惑をかけたことと存じます。

しかし、幸い関係の皆さんのご熱意によって、提携案件の数が増え、また、提携に向けての諸々の相談を受ける回数が増えるにつれて、諸問題への対処方法も普遍化できつつあります。また、純国産絹マークをつけたいという要望も数多く寄せられ、順調に動き始めました。補助金を財源としない大日本蚕糸会プロパーの助成事業も拡充を図りました。ようやく布石・配置などが終わるとともに、一部戦闘も開始され、まずまず序盤戦は終わったということとところでしょうか。

いよいよ今年からは中盤戦にさしかかります。勝負の分かれ目となる重要な時を迎えるのです。とかく2年目というものは、初期の緊張感がゆるんでたるみがちになる時期ですが、あらためて締めるものをしっかり締めて、頑張るといふ決意を新たにしています。この時期を実りあるものにしていかないと、いかに終盤の寄せの力が強くても勝ちきることはできません。一夜漬けでの試験勉強でうまくいかないことは経験済みです。

一方、長考をしている時間ありません。緊急対策事業には終期があり、持ち時間は限られているのです。持ち時間の中で、今年の干支の牛のごとく着実に歩をすすめ、勝ちに向かって進んでいかななくてはなりません。

我々は、蚕糸絹業の皆さんのいわば負託を受けて仕事をしていると言っても過言ではないと思います。惰性で仕事をするのはやめましょう。創造力を発揮し、いいことはどんどん実行していきましょう。

今日、世界的規模での景気後退、消費の冷え込みなど予期しなかった厳しい状況に直面しています。しかし、一方において、国産品を高く評価する傾向、トレーサビリティ重視の傾向は、きわめて顕著になっています。このような消費性向を追い風にして、勝負をかけていこうではありませんか。

当提携支援センターが本年3月31日に承認した提携グループ「絹を未来に」プラチナボーイ研究会」の事業は、現在、順調に展開しているとのことで、今回、株式会社銀座もとじ 代表取締役社長 泉二弘明<sup>もとじ</sup>さんにインタビュー取材を行い、その活動状況を語っていただきました。

## 「男のきもの」は特徴ある蚕品種「プラチナボーイ」

「男のきもの」を銀座に根ざしたご本人、泉二社長は、銀座4丁目にすでに4店舗、本年大阪に1店舗を開設し、純国産絹織物を適正価格で販売しています。

泉二社長は、奄美大島の出身。体育教師を目指して、上京しましたが、体を壊され、道半ばで断念。「上京の時、私が高校1年の時、亡くなった父の形見である「大島紬」を母親が持たせてくれました。この大島紬に袖を通した時、父の思いを受け継ぎ、きもの販売が自分の仕事」との気持ちを強く抱かれたとのこと。

呉服店をやるのであれば、「銀座で」の意思を持ち、31歳で独立。

銀座で5.8坪の小さなお店を開設した時は、「やったー」と小躍りしたといいます。

「お土産なし、観光・接待なし、バーゲン・値引きなし」で、いつも適正価格できもの販売を始めました。「女性の支持を受け」自分の信念で販売体制を確立してきました。

また、2001年、銀座で「紬戦争」が勃

発しました。銀座の呉服店各社が紬を置いて、販売競争となりました。真っ先に紬の反物を揃え、販売していた銀座もとじは、お客様のニーズをつかむことが大切と考えました。

そこで、全国の呉服店3万店のほとんどは、女性のきもの販売店であることに着目。人口の半数は男であり、男のきものを販売する呉服店があるべきと社長自ら「洋服をすべて捨てて、きもの着用」を決意し、男のきものを作り販売することとしました。

他のお店と同様なことをやっているとして「銀座では生き残れない」信念が、特徴ある「男のきもの」「適正価格販売」等に繋がっています。

### お店での蚕飼育と「銀座の柳染」

泉二社長の御子息が小学生の時、「お父さん、きものは何から作られるの?」との素朴な質問がきっかけとなり、「銀座のお店での蚕飼育」となりました。

当時、銀座で蚕を飼育するなど、大変珍



インタビューの写真（泉二社長）

しいことで、いくつかのメディアが取り上げてくれ、連日、多くの蚕を見る人々で溢れ返っていたとのこと。「お店の商品をすべて片付け、蚕を飼育する場所としたため、利益など生まれるはずがなく、今思えば、馬鹿な事をした」と苦笑されます。でも、その経験が「自分のきものの原点を知った」といいます。

また、「銀座の柳」と歌われるように、有名ですが、この柳は年1回、剪定されるとすべて捨てられていました。これを見た泉二社長は、「柳を草木染めの原料としないか」と考え、試行錯誤の結果、「柳染め」が出来上がりました。そして、この銀座の柳を使って草木染めの課外授業を、地元の泰明小学校の児童の体験学習の一環として、すでに10年以上、指導に当たっています。

### 「プラチナボーイ」との出会いと提携システムの確立

プラチナボーイを知ったのは、一緒に提携システムの一員となっている「柁マルシ

バ」からのお話でした。

「怖いもの知らず」の泉二社長。即断即決でした。店を持った時からの夢の一つである「繭・生糸から絹織物の商品化」の実現が可能になると考えました。

「利益を追い求めるのではなく、夢の実現。ロマンがある。」と思われたそうです。プラチナボーイの繭、そして生糸を全量買い取って商品化することとしました。損するかもしれないとの危惧もありましたが、「顔の見える商品づくり」の一つとなりました。

提携グループを作ることは、養蚕農家の生き残りにつながると考えています。今までは、農家が作った繭がどのような絹織物になるのか、わかりません。しかし、グループ内で、商品化までの意見交換をしていくことにより、繭の商品化が見え、農家の方々に喜んでいただいています。

“作ればよい時代からトレーサビリティの明らかな時代”のきもの販売となってきました。

「プラチナボーイの商品は、利益は与えてくれないが、ロマンを与えてくれる」といいます。そして、多くの人に好評を得ています。プラチナボーイのきものは、軽く、光沢があり、素材の良さが存在感にもつながる、と愛好する方も増えお客様の喜びの声が増し、商品に対する評価も高くなっています。

男のきものは、ここ1、2年ブームとなっています。規模は小さくとも成功した商品は、販売量が伸びています。特徴ある絹

---

---

織物づくりが必要であり、そのためには、養蚕農家の繭づくりから、絹織物に従事する職人のもの作りに対する考え方を変えていく必要があります。“いいものを作ろう”という、努力が大切です。

泉二社長は他にはない独自性を持ち、自信を持って販売できるものづくりを重視しています。提携システムの事業展開がこれを可能にしました。

今回、プラチナボーイで、結城紬を作りました。作業を見ていただくため、結城紬

の織手さんが、銀座で実演を行いました。サラリーマンなど多くの通行人が、足を止め、食い入るように見つめていました。関心の高さを見て、実演者（上野さん）は、より自信を深め、より良い絹織物の提供に努めたいと決意を新たにしましたといえます。

「これらは、プラチナボーイによって与えてくれたもの」と泉二社長は、感謝しています。

洋服を着つくした人は、きものを着ます。

この美しいプラチナボーイの商品も長く続けていきます。



プラチナボーイ使用の結城紬

## 支援センター活動日誌No. 4 (H20.11.1 ~ H20.12.31)

年月日	活 動 内 容 等
20.11.5	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会等 (長野県下諏訪町)
20.11.21	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会等 (長野県飯田市)
20.11.25	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業及び 財団法人大日本蚕糸会蚕糸絹文化活性化推進事業の推進に係る会議 (東京都有楽町 蚕糸会館)
20.11.27 ~ 20.11.28	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会等 (宮城県及び福島県)
20.12.10	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る蚕種の打合せ (茨城県つくば市)
20.12.18	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る蚕種及び養蚕資材の打合せ (長野県松本市)
20.12.19 ~ 20.12.20	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会等 (愛媛県西予市)



緊急対策の実効を確保する活性化事業説明会

# 純国産絹マーク使用許諾について（平成20年度第3次分）

社団法人日本絹業協会

純国産絹マークの第3回審査会を10月31日（金）に開催しました。今回、10社（うち、生産履歴の追加申請が3社）から申請があり、審査委員会で審査した結果、下記のとおり10社に対し、11月6日（木）付で純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

この審査会は、9月12日の第2回開催（第2次許諾者は16社、ただし追加分1社を含む。）に次ぐもので、この結果、本年度の純国産絹マーク使用許諾者は、合計35社となります。なお、第1次分の使用許諾内容は「本誌No.2」p4～5を、第2次分については「本誌No.3」p7～10をご覧ください。

## 記

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社むらかね 代表者名 村井 謙一 青森県八戸市廿三日町 43-1 (担当者：村井謙一) Tel 0178-44-1666 表示者登録番号 029	後染反物 (色無地)	30反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房又は(株)菱健 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
株式会社高島屋 代表者名 鈴木 弘治 東京都中央区日本橋2丁目4番1号 (担当者：鈴木弘治) Tel 03-3211-4111 表示者登録番号 030	後染反物 (振袖) (七五三着物) 長襦袢地	250枚 300枚 200反	繭生産 那須南農協管内養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 美雲織物(株)、(株)竹 林、(株)松浦絹織、河 藤(株)、豊織物(株) 染 色 (株)千總
株式会社さが美 代表者名 小野山 晴夫 横浜市港南区下永谷六丁目2番11号 (担当者：小野山晴夫) Tel 045-820-6000 表示者登録番号 031	後染反物 (冬用黒紋付) (夏用黒紋付)	300反 300反	繭生産 J A 新田郡 管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (有)両輪産業、 小熊機業(有) 染 色 (株)橘一
有限会社まるけい 代表者名 高井 友樹 静岡県富士市吉原2丁目3番23号 (担当者：高井友樹) Tel 0545-52-0688 表示者登録番号 032	後染反物 (色無地)	30反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房又は(株)菱健 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
有限会社特選呉服専門店 後藤 代表者名 後藤 義昭 青森県むつ市小川町 2-7-15 (担当者: 後藤義昭) Tel. 0175-22-2647  表示者登録番号 033	後染反物 (色無地)	30 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房又は(株)菱健、 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
株式会社小いけ 代表者名 小池 泰弘 山形県鶴岡市本町 1-8-43 (担当者: 小池泰弘) Tel. 0235-22-3215  表示者登録番号 034	後染反物 (色無地)	30 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)菱健、 駒匠藤本 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
株式会社伊と幸 代表者名 伊藤 公一 京都市中京区御池通室町東入ル 竜池町 448 番地の 2 (担当者: 伊藤公一) Tel. 075-211-2361  表示者登録番号 035	後染反物 (色無地)	1110 反	企 画 自社 蚕品種 松岡姫、上州絹星 繭生産 山形県・秋田県・群馬県 養蚕農家 製 糸 松岡(株)、碓氷製糸農協 (株)宮坂製糸 製 織 河芳織物(有)、羽賀恒明 白数織物(有)、織処丸重 染 色 (有)高山染巧
絹小沢株式会社 代表者名 小林幸夫 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 (担当者) 土井芳文 Tel. 027-361-2311  表示者登録番号 021 (生産履歴の追加)	胴裏	1200 枚	企 画 日本蚕糸絹業開発(協) 繭生産 熊本県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株)カブト 精練加工 (有)江島屋染工場 販 売 (株)鶴屋百貨店
有限会社 樹 代表者名 須藤 勲 秋田県横手市婦気大堤字婦気 7 番地 (担当者: 須藤 勲) Tel. 0182-32-2378  表示者登録番号 010 (生産履歴の追加)	後染反物 (色無地)	50 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 染工房喜々 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
21世紀の絹を考える会 代表者名 石田克己 京都府城陽市寺田桶尻 12-3 (担当者) 石田克己 Tel. 0774-52-2218  表示者登録番号 023 (生産履歴の追加)	帯 (先染袋帯)  後染反物	150 本  315 反	蚕品種 あけぼの 繭生産 J Aみなみ信州管内 養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 山口織物(株)、羽賀恒明、 江口機業(株) 染 色 (株)寺川染工場、(株) トキワ商事、きもの帯 ふく田、(株)染の百趣 矢野、(有)大竹商店、 (株)京都紋付、 (株)染と繻 きだ

---

---

## コーディネーター活動の紹介②

### 川上と川下の橋渡しが使命

—コーディネート活動とその実績—

**株式会社 深田商店**

取締役専務 深田 祥二



“素材の差別化”が求められる時代となり、絹も「純国産絹マーク」ができ、消費者にアピールできることは、画期的なことと考えます。

今、世界経済は、不況感ただよい、着物業界の先行き不安があります。糸商は、保有する生糸を高額で仕入れし、現在、値下げして販売している状況です。生糸の評価損が発生し、大きな痛手となっています。不況は、いたるところに影響を与えています。

#### 養蚕農家との対話を通して

コーディネート活動の一環として、福島県下のいくつかのJAと協議を行っています。その中で、いくつかの課題が見えてきました。

第一に、「産地の繭生産量の減少」です。産地の繭の小ロット化により、繰糸段階では、いくつかの産地の繭を混繰せざるを得ない状況とっています。その結果、繭の品質が均一とならない場合が発生し、織度ムラ及び染色ムラが生じることとなると危惧しています。

織度ムラのある生糸は、機屋は引き取りしません。

できることであれば、同一農家で、希望する一定量の繭生産が可能な対応を行っていただきたいと考えます。同一農家が、同一蚕期に生産

すれば、その繭の品質は、均一化されると思っています。

#### 素材からの差別化を図る

最近、プラチナボーイ、小石丸、三眠蚕など特徴ある蚕品種を活用した純国産絹製品づくりが、多くみられます。素材から差別化した商品が販売促進につながっている事例といえます。

今、絹製品商品群は、多様化する傾向にあります。小ロット多品種に対応したものづくりになります。機屋サイドでは、既にこの対応に動いています。私は、このものづくりにおいて、川上と川下の橋渡しを行うのが、使命と感じています。

私は、蚕品種の素材の差別化に加え、繰糸、撚糸各段階の差別化を総合的に付加することにより、出来上がった絹織物は、より消費者にその差が見えてくると思っています。当然、従来の商品より高額となってきますが、販売先を特定（呉服NCや大手呉服小売店）するなど、販売戦略を含め、消費者のニーズに合った対応を行っていこうと思っています。

不景気になるほど、絹織物は販売先を確保して製造にかかることとなります。糸商は、生糸保有に対するリスクは持てても、絹織物のリス

---

---

クまでは、負担が大きい状況です。また、織物問屋などと連携して、在庫リスクを担う体制を確立する必要がありますが、資金力が課題となります。販売先を確保しておくことにより、在庫リスクの軽減が図られることとなります。

### 生産履歴の明らかな商品づくり

前述の通り、差別化して成功した事例はいくつかあります。食品のトレーサビリティは、その典型的な例でしょう。また、カシミアも同様です。カシミアは、廉価量販店でも売る時代ですが、一般の消費者は、従来からのカシミアに対して持つイメージを保持し続けています。今では、希少価値から肌触りの良さなど品質にこだわりを持った商品の提供となっています。

絹織物も同様に、生産履歴が明らかな商品づくりが可能となってきました。純国産絹マークは、生産者明記です。消費者に情報開示・提供が、どのような商品でも重要でしょう。消費者のニーズに合った商品の提供をしていく所存です。

### 純国産絹マークで消費者に安心感を

純国産絹マークは、いくつかのグループで既

に申請・認可されています。絹織物が製造され、今年春には、多くの純国産絹マークが添付された絹織物が、消費者の目につく小売市場に並んでいると思います。このとき、このマークが、どの程度注目を浴びるか、また、消費者に受け入れられ、販売に結びついていくか、が問われるときといえます。

蚕種会社・養蚕農家・製糸業者・絹織物製造業者・小売業者などの一貫した販売体制を確立したいと努力しています。

JA、養蚕農家との話し合いも続けています。「飯でも食っていけ」と農家の皆さんにいわれ、お互いに意思が通じ合うと信頼感も高まりました。

今、多くの関係者の協力を得て、優良な繭の提供を受け、特徴ある繰糸方法で生糸をつくり、「純国産絹織物」の製造のスタート地点に立ちました。

「一般消費者の理解を得た純国産で商品の安心感のある特徴あるものづくり」を目指して、これからもコーディネート活動を行っていきたいと考えます。今後とも、ご支援、ご協力お願いいたします。



純国産製のきもの ((株) 織匠田歌提供)

### 「ふい絹」による商品開発の取組み

—中間検討会の概要—

(財)大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

上席研究員 清水 重人

現在、蚕糸・絹業提携支援センターでは、提携グループによる純国産絹製品のモノづくり及びその販売収益により繭代を養蚕農家へ支払う提携システム化の取組みが行われており、国内各所で繭品種に特徴あるもの、繭保存法や繰糸及びその加工方法等に特徴のある純国産絹製品の開発が進んでいます。

このような中、さる11月17日に貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成を受けて行っている「太織度低張力糸の商品化に関する総合的研究」の中間検討会を蚕糸会館で開催しました。本研究会は、蚕糸科学研究所を中心とし、新しい糸づくりに関するハード及びソフト面の技術開発を行ったうえで、織編物メーカー等の協力のもと商品開発チームを構成し、国産繭による純国産絹製品の商品開発を行っており、今年で2年目となります。

太織度低張力糸（「ふい絹」と称する）は、

次に掲げるように、繭の糸がもつ本来の機能、特性をそのまま活かして製品化することを目標に開発してきました。

- 太糸；繭糸1本は、マイクロフィブリルという超極細繊維からできており、その繭糸を束ねることにより、極細の機能とそれを束ねた太さの特性を活かす
- 低張力；繭糸1本当たり0.4g以下の繰糸張力で糸を挽くことにより、繭糸のもつクリンプを残しその特性を活かす
- 絡み；綿甲冑等鎧に使われた真綿のように、糸の絡みによる強さの機能を活かす
- セリシンを残す；セリシンのもつ吸湿、保湿等の機能を活かす
- 無撚り；撚糸は最小限とし繭糸の風合い等の特性を活かす

一方、現在「ふい絹」は、フィッシングアップ繰糸法あるいは攪拌繰糸法等の低張力繰糸法によって生産されており、ともに

---

---

前記に掲げた特徴ある機能をもっているが、繭からほぐれるときに出る綿状の節や、太さのむらの発生があり（これらも繭糸のもつ本来の特徴である）、従来の生糸による商品の規格水準からすると欠点要素となり、従来の生糸・絹に対する既成概念からだけでは商品化を難しくしている面があります。そこで、商品化チームには、節やむら等の特徴を含めた「ふい絹」の特徴を理解していただいた上で、知恵とアイデアにより商品アイテムを考案し、商品開発に取り組んでいただきました。その結果、以下に示す様に「ふい絹」の特徴を活かせる商品化アイテムの方向付けやそのための糸の加工方法等が明らかになってきました。

- 光沢、染色性、かさ高性に従来の生糸とは違う特徴がある
- 織物では、特に帯やデニム地で特徴を出しやすい
- ニットでは、セリシンの残し加減、ピーティング処理やカバリングなどの加工方法等を工夫することにより、柔らかさとボリューム感や膨らみ等の風合いに特徴をだすことができ、ソックスやインナーからアウターまで広範囲のニットへの展開が期待できる。
- パソコンコントロールによる節を特徴とした「玉のれんふい絹」等は、装飾デザインとしての活用が期待できる

○手芸用の特徴あるシルク素材として活用できる

このような知見をもとに、20年度は11チームによる商品化取組みが行われており、今回の中間検討会では各チームによる商品開発進捗状況や提携システム化への移行の可否及び移行における問題点等についても報告をしていただきました。その中で、特徴ある商品化6チームの取組みの状況について試作商品の写真等を紹介します。糸の概要、特にその加工方法等チームのノウハウにかかわる詳細については省略しました。これらの作品および他のチームの商品試作品については、平成21年2月3～5日に行われる日本絹業協会主催の純国産シルク企画製品展への出展を予定・計画しています。

今回の中間検討会で、委員の中から提携化のためには、原糸価格を設定する必要があるとの指摘を受けました。そこで、今後主流になると予測される「ふい絹」の種類と生産量をふまえ、糸づくり及び加工工程における設備等生産ラインについて関係者で検討し、早急に価格設定への対応を進めたいと考えております。また、糸づくりの完成度をさらに高めるため、関連技術の確立を図っていきたいと考えています。

チーム名：(株)マルシバ  
糸の概要：1000d、精練無し  
アイテム：能州紬による名古屋帯



チーム名：東北撚糸(株)  
糸の概要：200d、歩練り他  
アイテム：デニム紳士服



チーム名：匠グループ  
糸の概要：200d、歩練り、カバリング他  
アイテム：プリントニット、婦人服地



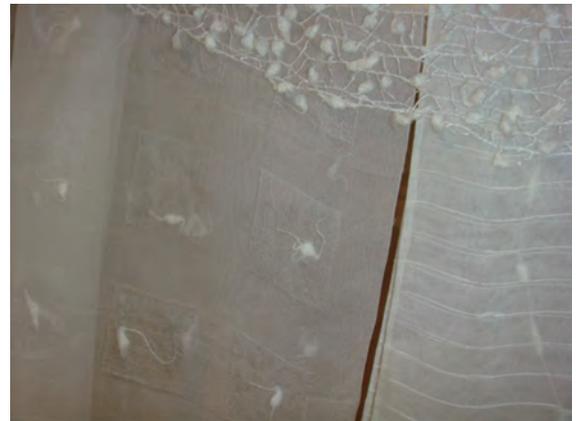
チーム名：(有)ミラノリブ  
糸の概要：800d、歩練り、カバリング  
アイテム：ニットカーディガン・プルオーバー



チーム名：天然藍匠同人  
糸の概要：500d、精練無し  
アイテム：シルクジーンズ



チーム名：ぐんま絹行グループ  
糸の概要：玉のれんふい絹  
アイテム：コメット編スカーフ他



## 化粧品におけるシルク素材の応用について

(株)カネボウ化粧品

製品開発研究所

佐野 章子

### 1. はじめに

紡績工場として始まったカネボウ化粧品(旧鐘紡)は、1908年に絹糸部門に進出し、シルクの仕事始めて今年でちょうど100年がたちます。今回ご紹介するシルクパウダーも使用され始めてから30年以上が経つ素材です。

シルク素材は、その高い染色性や吸湿性・放湿性といった機能とともに、美しい光沢や高級感・風合いなど、私たちの生活を豊かにしてくれるという特性をあわせ持っています。化粧品も同様に、女性にとっては

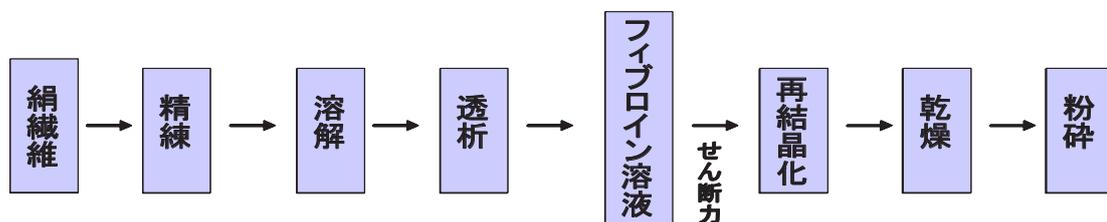
図1

肌を守ってくれたり、身だしなみであったりという生活必需品であるとともに、気持ちや対人関係などにも影響をするものであると考えられています。共通点も多いこの特性を生かして、シルクは化粧品の素材として研究されてきました。今回は、当社で開発されてきたさまざまなシルクパウダーについて、その特徴とともにご紹介させていただきます。

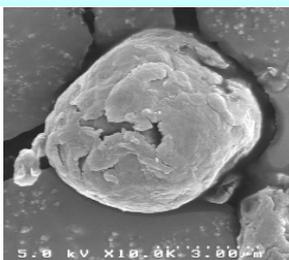
### 2. 球状シルクパウダー

～肌との親和性が高く肌触りの良い天然由来パウダーとして～

#### 球状シルクパウダーの製造方法(再結晶法)



#### 球状シルクパウダー



#### 再結晶法の利点

- 絹繊維を粉碎する方法に比べ、
- ・不純物が少ない
  - ・球状にできる  
→すべりが良い
  - ・粒子径のばらつきが少ない  
→マイルドな肌触り

シルクは肌との親和性が高く、衣類では保温性・吸湿性・通気性などが良好な点から、長い間親しまれてきた素材です。そこで、これを化粧品に配合できるパウダーにするため、シルクの繊維を粉砕して粉末状にするなどの研究がなされてきました。しかし、この方法だと粒子の大きさが不ぞろいになったり、形がなめらかにならず、独特のシルキーな感触は得られませんでした。カネボウ化粧品ではシルクを粉砕するのではなく、フィブロイン水溶液からシルクパウダーを再結晶化することにより、不純物が少なく、球状であるためにすべりが良く、マイルドな肌触りのシルクパウダーを作ることに成功しました。(図1)

### 3. 空気と水分を含む多孔質シルクパウダー～機能性の向上にむけて～

このような風合いに優れ、さらさらした

好感触を有するシルクパウダーはファンデーションなどの製品に広く応用されてきました。

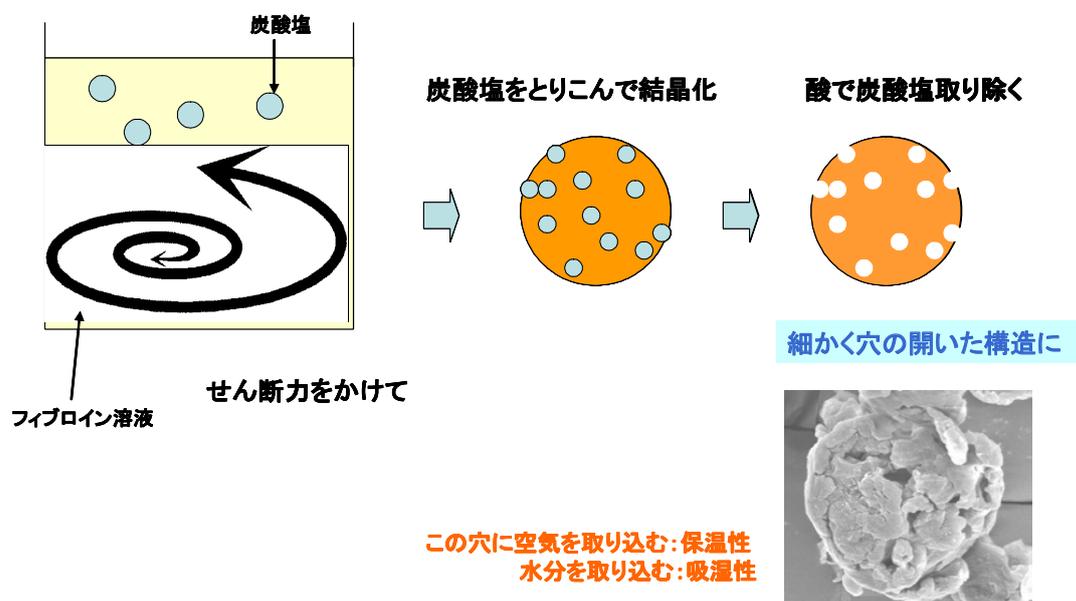
しかし、衣料におけるシルクの特徴は、すべりや肌触りだけではなく、吸湿性や保温性などによる快適さがあります。そうした機能を持たせるため、多孔質のシルクパウダーが出来上がりました。多孔質とは、たくさんの穴が開いているという意味です。

これはまず、先ほどの球状シルクパウダーの製造工程の途中のフィブロイン水溶液に炭酸塩を添加し、炭酸塩が分散した状態でシルクパウダーを析出させます。そうすると、パウダー中に炭酸塩が取り込まれた状態になります。次に酸処理によって炭酸塩を取り除くと、その部分に細かい穴があいた構造ができるというものです。(図2)

この多孔質シルクパウダーの機能を実際

図2

#### 多孔質シルクパウダーになる仕組み



に測ってみたものが図3です。

よく使われている化粧品原料と比較したものなのですが、左の図が吸湿性です。湿度70%の湿った空气中にパウダーをおいておくと、多孔質のシルクパウダーのほうが、時間がたつと水分を含んで重くなっていくことがわかります。

右の図は保温性で、パウダーを80℃に加熱してから、放冷したときの温度の下がり方を見たものです。多孔質のシルクパウダーのほうが時間がたっても冷めにくく、保温性があることがわかります。

この性質からこのパウダーは、乾燥から肌を守る素材として秋冬用ファンデーションに応用されました。

#### 4. 水分でべとつかない、さらさらすべすべシルクパウダー ～さらに快適さを求めて～

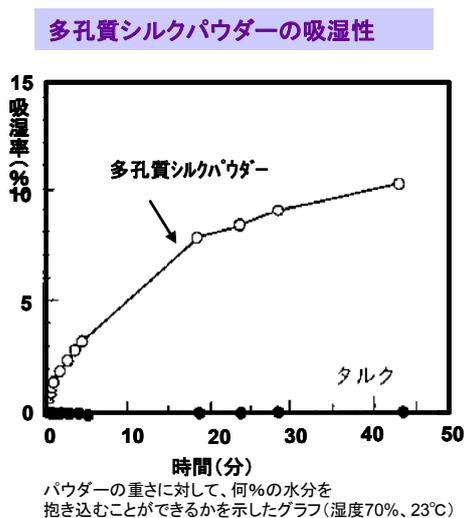
シルクパウダーはさらさらした好感触を持っていますが、水分を吸うという利点がある反面、汗などの水分を吸った後は、べたついてしまうことが欠点となっていました。

ところが、従来のシルクパウダーに対し表面制御（不溶化）と形状制御（軟凝集構造化）を両方行うことによって、水分でもべたつかず、さらさら・すべすべ感触が持続する新しいシルクパウダーが得られることがわかりました。

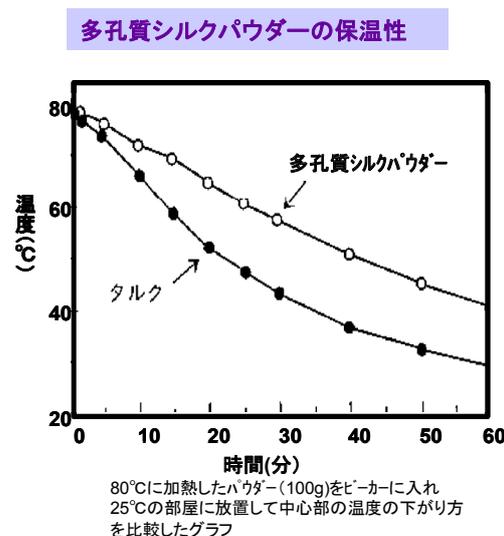
シルクパウダーの表面を不溶化すると、写真1のように表面の結晶化が進み、緻密な構造が出来上がります。

つぎに、スプレードライ処理により軟凝集を形成させます。スプレードライとは粉末食品や洗剤などによく利用されているもので、高温の気流中に液体を噴霧して瞬時に乾燥する方法です。この方法で不溶化し

図3. 多孔質シルクパウダーの機能性



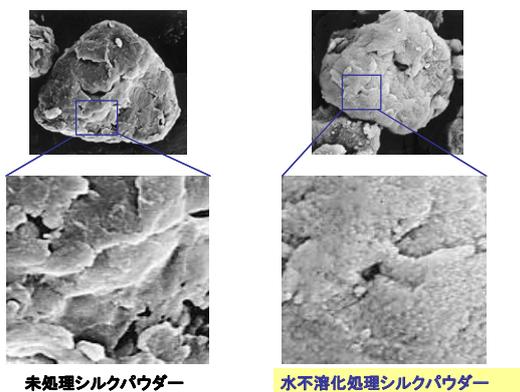
時間がたつにつれ、  
自然に水分を含んでいく



時間がたっても冷めにくく、  
保温性がある

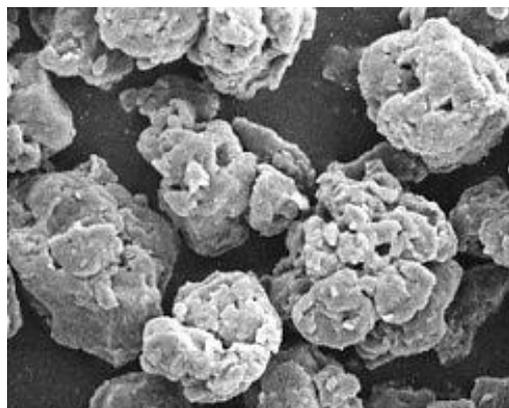
写真 1

水不溶化処理による表面状態の変化



表面の結晶化が進み、緻密な凹凸が生じている

写真 2. スプレードライ処理新シルクパウダー



たシルクパウダーを処理すると、中が中空で軽く、さらに緩やかな力で崩れる柔らかい塊（写真2）ができます。大きな粒子になるので、初めはすべりがよく、転がりながら細くなって肌に付着してゆきます。これによってさらさら・すべすべの感触が得られるのです。

図4は、こうして出来上がったシルクパウダーの感触のすべすべ感を摩擦感テスターという機械で比較してみた結果です。縦軸は摩擦の度合いを表しており、数値が小さいほどすべすべ感が高いことを表しています。従来品もすべりは良いのですが、スプレードライ処理をした新しいシルクパウ

ダーはこれよりもすべすべ感が高いことがわかります。

また、図5はこのパウダーの吸油性です。パウダー 100 g がどのくらい油を吸うかを測ったもので、新しいシルクパウダーのほうが油分をよく吸うことができることがわかります。このことから、汗や皮脂が肌から出てきたときに、それを吸ってさらさらに保つことができるのです。

この特性を応用することによって、べたつきを防いで快適肌を維持する春夏用ファンデーションを実現することが出来ました。

図 4

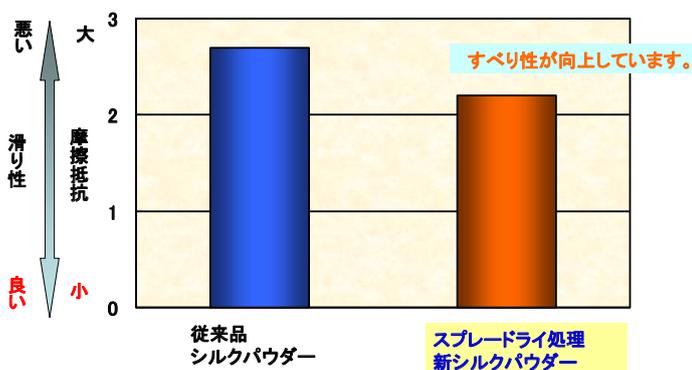
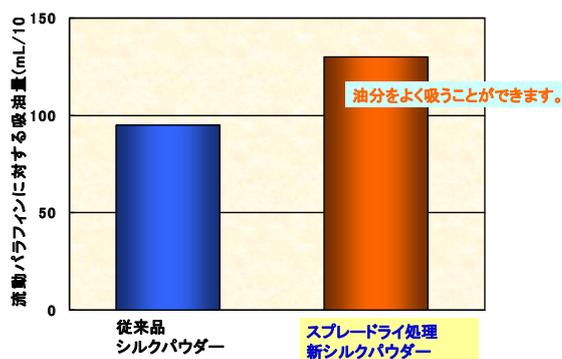


図 5



## 5. 天然色素染色シルクパウダー

### ～色の魅力へのアプローチ①～

メイクアップ化粧品（口紅やアイシャドウなど）の魅力を左右するのは、なんといってもその色ですが、色をつくる材料のひとつに天然色素があります。

天然色素は魅力的な色合いを持っていますが、水や油に溶けやすく、PHや金属イオンなどの影響で色調再現性が悪いなど、実は化粧品にとっては配合が難しいものです。これを、魅力的な色合いのまま安定に配合するために、シルク繊維の染色性の良さを利用した染色シルクパウダーの開発が始まりました。

方法は、先にご紹介した多孔質のシルクパウダーの構造を利用して、繰り返し染色していく方法です。多孔質であるため高濃度に染め上げることができ、また、高純度のフィブロイン水溶液から作っているために、染色を妨害する金属イオンなどの不純

物が少なく、染着性を高めることができます。

色素抽出や染色・色合いに関しては、古代色彩史の権威である前田雨城先生のご指導をいただき、日本の古代三大植物色素である、くちなし・紫根・紅花色素染色シルクパウダー（写真3）が開発されました。

このように、シルクの技術と古代染色の技術の融合によって、不安定な天然色素を安定で化粧品にも配合しやすい素材にすることができました。

## 6. 金コロイド染色シルクパウダー

### ～色の魅力へのアプローチ②～

同様な技術の応用で、いろいろなシルク複合パウダーを作ることができます。

たとえば、ベネチアングラスの赤は金の超微粒子が発色していることをご存知の方も多いと思います。これを応用したものが、金コロイド染色シルクパウダーです。

写真3

### 天然色素染色シルクパウダー



紅花赤染色

紅花黄染色



くちなし黄染色

くちなし青染色



紫根染色

写真 4

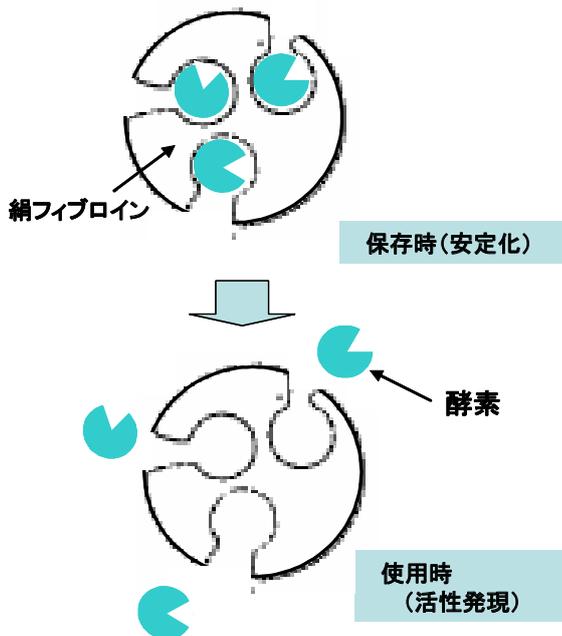
### 金コロイド染色シルクパウダー



シルクフィブロインの透析後の溶液に金ヒドロゾルを混合すると、写真4のような淡赤紫色のパウダーが得られます。これは、金の超微粒子による発色であるため、変色や退色がありません。

図 6

### シルクフィブロインによる酵素の固定化のモデル図



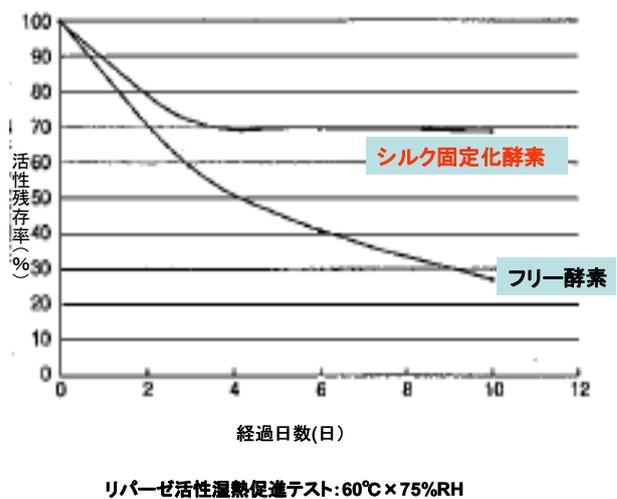
## 7. シルクによる酵素の固定化

酵素の固定化・・・などというとなかなか難しいイメージをお持ちの方もいらっしゃると思いますが、江戸時代に庶民が銭湯で使っていた「ぬか袋」にはその米ぬか中に酵素であるリパーゼが含まれていたという説があるほど、身近なものです。

化粧品では、古くなった角質を取り除く作用があることから、洗顔料に配合する研究がなされていました。

しかし、酵素は熱やPHによってその活性が変化しやすいため、実際に機能を発揮させることは、簡単ではありません。ここでも、シルクフィブロイン溶液の結晶化を利用します。フィブロイン溶液からシルクパウダーが析出する際に酵素を添加すると、フィブロインの結晶中に酵素が取り込まれ固定化されます。図6はシルクフィブロインによる酵素の固定化のモデル図です。シルクフィブロインのパウダーの中に取り込まれていた酵素が水を加えて洗顔料として

図 7



---

---

使うときに外に出て活性を発現します。

このように安定化した固定化酵素は、熱などによって活性を失うことが少なく、化粧品中に配合した場合でも、効果を発揮できます。図7は、高温多湿の状態での酵素活性の残存率を測定したもので、横軸が経日日数、縦軸が活性の残存率です。シルクパウダーに固定化したものは、フリーの酵素と比較するとかなり活性を失いにくいということがわかります。

## 8. おわりに

今回は、今まで化粧品に応用されてきたシルクの素材についてご紹介させていただきましたが、昔から愛されていた素材に新しい技術や考え方をプラスすることで、新しい魅力が生まれてくることを改めて感じることができます。

これからの時代はもっと自然にやさしいものづくりが望まれていくことになるでしょう。

国産シルクをはじめとした、伝統のある、自然の力から生まれた素材を、皆様に喜んでいただける商品作りに生かしてゆければと思います。

## 中国最大の繭生産基地” 広西壮族自治区” の養蚕事情

財団法人群馬県蚕糸振興協会  
齋藤 敏 弘

世界主要国において06年に家蚕繭が935千トン、生糸が116千トンが生産されている。そのうちの約80%にあたる家蚕繭740千トン、生糸93千トンは中国で占められている。中国では、ここ5～6年の間に繭や生糸の生産量が40～50%も増加しているが、中でも広西壮族自治区の繭生産量は、最近10年間で12倍以上に激増している。

当地では、この繭増産にあわせて蚕種製造所や稚蚕飼育所、製糸工場等の増設や整備、さらに養蚕技術の改良が進められている。しかし、養蚕農家における飼育施設等の整備や技術水準は十分とはいえず、生産繭の品質は観察上ではあるが必ずしも優良とは見られない状況にある。

一般に生糸の品質は、繰糸技術と繭質によって左右されるが、前者により改善できる範囲はおおよそ20%程度にすぎず、80%以上は原料繭の良否によって決定されるといわれている。

そこで、広西壮族自治区では、優良繭生産に向けた養蚕技術の改善、特に農家現場

の指導に取り組んでいる。その一環として当地の依頼により、去る8年9月に2週間と短期間ではあるが、南寧市、柳州市、宣州市、南丹県、桂林市など養蚕の盛んな地域において養蚕技術講演会を行った。その折に一部であるが現地養蚕農家、蚕種製造所、製糸工場等（写真1）の状況を視察してきたので、その概要を紹介する。



写真1 賓阳县の養蚕農家（蚕室）視察

### 広西壮族自治区の蚕糸業の現況

桑園面積は、05年の9.4万ヘクタールから06年に12.0万ヘクタールに、さらに07年には13.5万ヘクタールに拡大し、

ここ2年間で44%も増加している。また、繭生産量も05年度の14.8万トンに比し、

07年度は20.5万トンと39%も増加し、中国内生産量の約25%を占める主要な養蚕地に発展している。

このように当地において繭増産が進められた背景には、シルク産業を振興する中国の国策（東桑西移政策）があげられる。加えて、急速な桑園の増加や繭増産を可能にした大きな要因は、これまで畑作の大部分を占めていたサトウキビ栽培から桑園を造成して養蚕経営へ転換することにより10アール当たり収益が従前と比較して、約2倍に増加することから農家の経営意識が養蚕業に向かったことにあるとみられる。その養蚕で成功した模範的な何軒かの農家を見学したが、立派な住居を新築し生活していた。

一方、生糸生産量は年間約8千トンで、

国内生産量93千トンの約9%と少ない。この原因は繭生産が飛躍的に増加しても、産繭を受け入れて処理する製糸側の体制が整っていないことにある。

特に、現状の製糸工場数や規模では繰糸能力が十分でないため、やむなく江蘇省や浙江省等へ原料繭として販売されているのではないと思われる。

そこで、当地では蚕糸製品の付加価値を高めて養蚕農家への利益還元を増加するように良質な生糸の増産に努力している様子が窺える。現在、当地の製糸業は民間経営などいくつかの経営形態があるが、何れの繰糸工場も増産と効率化を進めていて、中には計画的に工場の新設や拡張工事に取り掛かっているところもある。（写真2）

### 桑園造成と蚕種製造

急成長する広西壮族自治区の養蚕で注目



写真2 3期に分かれた製糸工場建設計画



写真3 密植された桑園

されるのが、基盤となる桑園造成や蚕種製造である。桑苗は主に交雑実生品種であるが、これは現地の比較的高温な気候に適合して成長が早く植え付け後の早期から増収になる特徴がある。また、葉面積が比較的大く、摘葉収穫する現状の採桑方式に適するが、葉肉が薄く萎れやすい欠点がある。

桑園は、畝幅1 m程度と狭く、植え付け株数は多く、やや密植で多収になるが、人力主体の桑園管理と摘葉収穫のため、省力化や能率化が図れないという問題点が指摘される。(写真3)

なお、この地域ではサトウキビからジャスミン栽培に転換した圃場も多く見られ、近くの町にはジャスミン茶などの加工場もあり製品製造も盛んである。

蚕品種は、蚕業研究所が育成した二化性の両広二号が80%飼育されている。ほかに桂蚕一号と桂蚕二号が使われている。これらは繭糸質の優れること、比較的高温に推移する現地の気象条件に適合するよう虫質強健で飼育が容易なことを念頭に育成された品種である。



写真4 製造された平付け蚕種

蚕業研究所では、原蚕種を製造し蚕種製造者に配布し、蚕種業者は交雑蚕種を製造販売するが、農家が飼育する蚕種は、平付けで1枚あたり卵量30,000粒で掃き立てられる。(写真4)

### 養蚕技術と繭糸質

07年度は、蚕種560万枚が掃き立てられているが、1枚あたりの平均収繭量は30kgで、繭層歩合は18～23%、繭糸長は800～1,200mとのことである。1枚卵量30,000粒であるから単繭重1.8gとすれば減蚕歩合は45%と極めて悪く、単繭重が1.5gとしても上繭歩合は65%程度と作柄はあまり芳しくないと推測される。

繭層歩合や繭糸長についても荷口格差が大きく、地域や農家間の差異が大きいことが窺える。

蚕作安定には、まず蚕種が健全であることであるが、原蚕種製造所では微粒子病検査はもちろんのこと、蚕に給与する桑葉の洗浄消毒まで行って、微粒子病等の予防に努めている。また、地域にもよるが稚蚕共



写真5 稚蚕共同飼育所の飼育室

同飼育は約40～60%普及し、作柄安定に努めている(写真5)。しかし、配蚕後の個別養蚕農家の飼育状況を見ると、蚕室消毒や蚕座への消石灰散布など蚕病防疫には積極的に取り組んでいるが、蚕室はレンガに漆喰、モルタルの構造で窓が極端に少なく、通風換気に問題が指摘される。また、コンクリート床面に直接蚕座を設定する全葉給与の平面飼育のため、病原の伝播感染や座蒸れ等によると見られる膿病や細菌病



写真6 5齢期の全葉・平面飼育  
(床面には作業用踏み石がある)

等が発生している農家もみられる。(写真6)

上簇方法や簇中保護でも繭質を劣化する問題点が指摘される。まず外部汚染繭、簇着繭及び同功繭等が生じやすい竹簇などを使用していることが上げられる。また自然上簇の場合、竹簇のほか一部区画簇を導入している農家でも、大方の熟蚕が吐糸営繭を完了する頃まで蚕座上に簇を放置しておき解舒率の低下を助長するような上簇法や保護管理が行われている。(写真7)

さらに、繭出荷の際に収繭時期が上簇後5～6日目と早すぎるため、未化蛹蚕や鼻つき繭による内部汚染繭の発生も多く見られる。加えて、収繭したあと毛羽をとらずにそのまま布袋に入れて出荷しているため、選繭も殆ど行われないので死にごもり繭など不良繭の混入が多く、全体の繭質を低下させ、結果的に繰糸能率や生糸品質を低下する要因になっていると考察される。

### 広西壮族自治区の今後の課題

広西壮族自治区のほぼ中央にある柳州市では5県で養蚕が盛んに行われているが、今後繭生産量を現状の4.2万トンから7.2万トンに増産する計画である。そのうち柳城县では製糸工場5カ所、蚕種製造所1カ所、繭乾燥場46カ所のほか、絹布団、桑紙、蚕糞葉緑素工場等があるが、桑園を現在の78万ヘクタールから110万ヘクタールに、13カ所で40%を飼育している稚蚕共同飼育の普及率を100%にする計画である。

そのため、省、市政府、農業局及び県では高生産性、高品質繭生産技術の研究推進

---

---

に向けて3カ年間の計画で事業助成を行っている。

これらの計画目標の実現には、良質生糸の効率的生産の基盤となる優良繭の増産が不可欠である。そのため、特に個別農家に技術改善の意識を高めさせ、新技術を導入、実践することが重要課題と考えられるが、農村・農業改善や農業者の観点からは省力化や機械化などによる生産効率や労働条件

の改善の要望も強くなっている。

したがって、繭生産現場で解決を要する当面の課題としては、桑収穫・給桑作業の省力化や蚕作安定のための条桑育の普及、繭質向上を図る上簇管理の適正化、適期収繭、選繭の励行等があげられる。これらが達成された時に繭生産量と併せて、品質面でも優良な広西壮族自治区のブランド生糸として生産が定着すると期待される。



写真7 区画簇を利用した自然上簇

## 国内産地情報

### 絹織物産地の概況（11月）

#### 米国経済破綻の影響から我が国絹業界も苦戦が続いている

##### <原糸>

全世界に渡る金融不安の影響で、我が国の絹業界も不振を極め、機屋の生産調整的動向から原糸の手当ては積極的な所も見られず、円高が進行中で為替の乱高下もあり、各産地とも当用買いに徹している。

##### <白生地>

- ・丹後の縮緬生産は、前年比 84% で、無地 79%、紋生地 86% と共に不振であった。採算は更に悪化し経済単位縮小も限界である。
- ・長浜の生産は、前年比 97% で集散地の染漬しが低調のままであるが、11月21日より精練賃の値上げで駆け込みによる生産増となった。
- ・五泉の生産反数は、荷動きの悪さから前年比 22.3% の減であった。
- ・福島は、和装、スカーフともに低調で、受注減少から在庫が増えている。
- ・福井は、一部工場の休機もあり受注減も加わって生産は減少、チェーン店の縮小で販売点数も減少。
- ・岐阜は、織物生産は見込生産も含めた対応で、現状維持に努めている。
- ・群馬・埼玉は、売行き低迷は続いており、減産は続行している。需要期に入っても一向に上昇に転じず、減産を余儀なくされている。

##### <先染織物>

- ・西陣の帯は、外注機業の高齢化による自然減、市況の悪さにより意図的な減産で、生産高は低下基調に歯止めがかからない。産地問屋の地方売出しで、そこそこの数字が上がったようだが在庫減らしの販売に応じた感がある。
- ・博多は、求評会後も荷動きの活発さは見受けられず紋、平地ともに減産している。
- ・十日町は、付下げ、振袖、留袖が上向きに伸びている。
- ・米沢は、呉服はシーズンものの袴や帯に若干の引合いがあるが総じて低調。
- ・山梨は、服地で一部でそれなりに好調を維持。ネクタイは多少の動きはあるが、生産高は多いとは言えない。
- ・西陣のネクタイは、ようやく量販売店向けが動き出したが、例年より一か月遅れの稼働だった。しかし、総体的には各社 50～70% の稼働といった状況である。

\* (社) 日本生糸問屋協会月報 20.12.12 第 715 号による。

---

---

## 海外シルク情報

### 中国

#### 本年 11 月 3 日現在における中国各産地での繭と生糸の現物価格の動向について

##### 1、広西自治区

繭の現物価格は、引き続き低落傾向にあり、現在、生繭の農家からの買取価格は、11 元 / kg(165 円 / kg) 前後となり、養蚕農家の生産意欲は低迷するところとなっている。主産地の南部地区での乾繭価格は、約 36 元 / kg(540 円 / kg) であり、北部地区での乾繭価格は 33 元 / kg(495 円 / kg) まで下落している。また、この時期、現物流通量は少なくなっており、ただ自治区中央部の宣州地区では、少量ではあるものの、まだ繭の売買取引は行われている。

生糸価格は、工場からの報告によれば 3 A 格で 145 元 / kg(2,175 円 / kg) で取引されている。

##### 2、広東省

現在の乾繭の現物価格は、33 元 / kg (495 円 / kg) であり、秋蚕繭の収納 (農家から会社を通じて製糸工場へ) は、ほぼ終了しており、現物の流通量は少なくなっているものの、一部の地区では少量の在庫を持っている。生糸価格は、145 元 / kg (2,175 円 / kg) 前後で取引されている。

##### 3、重慶特別市

乾繭の現物在庫量の少なくなっている状況下において、その平均価格は 35 ~ 37 元 / kg(540 ~ 555 円 / kg) で取引されている。多くの絹 (製糸) 工場は、依然として傍観態勢を続けており、生糸の取引価格は 145 ~ 150 元 / kg (2,175 ~ 2,250 円 / kg) の範囲内にあり、その成約量は極めて少ない。

##### 4、四川省

省内の晩秋蚕繭の収納は、基本的に終了しつつあり、現在の乾繭の現物価格は 35 ~ 36 元 / kg (525 ~ 540 円 / kg) である。一方、生糸の現物価格は、148 元 / kg(2,220 円 / kg) となっている。

##### 5、浙江省

現在の乾繭の現物価格は、37 元 / kg(555 円 / kg) であり、欠点のない品質良好なものは 40 元 / kg(600 円 / kg) 前後を維持している。

生糸価格は、3 A 格で工場出し値 150 元 / kg (2,250 円 / kg) で売買されている。

総じて、9 月始めに比べて中国の繭・生糸国内市場が冷え込んでいる状況がうかがえる。

---

---

## 中国生糸検査規則ついに改正を正式決定

中国では、一昨年来、生糸の検査規則改正の動きがあったが、本年10月20日付けで正式に改正する通知があった。

本年8月6日付けをもって改定することとし、実施時期は、2009年6月1日よりとする旨の公文を全国関係部署に通知した。

## 中国輸出企業支援策として輸出増値税還付率引き上げ

中国通関統計によれば、最新中国シルク輸出状況(本年1～9月)は、生糸類と絹織物は数量ベースで前年比6～7%増、金額(ドル)ベース前年比約1割増と順調であるが、金額(ドル)ベースで輸出全体の約6割を占めるシルク2次製品(服装類が主体)が低調(前年比約1割減)であるため、輸出全体として前年同期を若干下回るものとなり、今年に入ってからのが替事情(ドル安、人民元高)を考慮すれば、実質の輸出による収益は前年より約2割程減少しているといわれ、世界のシルク輸出国中国も曲がり角に差しかかっている状況下にある。

本年初頭以降、中国繊維産業では、経済成長に伴う人民元高、人件費の上昇、本年から施行された新労働契約法の適用(退職金の支払い義務、期間雇用契約2回更新で終身雇用、社会保険費の負担増)、加えて最近の金融不安による対米向け輸出減少等々、輸出企業にとってコスト増要因はめじろ押し状況下にある。この様な輸出産業の苦境に配慮して、中国政府は最近2度にわたって輸出増値税の還付率引き上げを実施している。

増値税とは、消費税の一種であり、国内販売額の17%が課税されるもので、輸出に関しては当初、輸出促進のために輸出時に全額(17%)返還されていたが、その還付率は段階的に低減されていたものである。2003年当時、シルク類にもその低減が適用され、その分を生糸輸出価格にコストオンされてその値上げが話題になったのは、記憶に新しいところです。今回は、逆にその還付率を引き上げて輸出企業の採算向上を狙いとしている。

本年の8月1日以降、生糸類、絹織物、シルク2次製品について11%から13%(2ポイント)引き上げた後、再度、11月1日より絹紡糸、絹織物、シルク2次製品について、さらに1ポイント上げて14%にする措置を公表している。中国輸出入組合の試算によれば、1ポイントの上昇により輸出企業の採算は4～5パーセント増加するといわれ、この援護策の影響は大きいものと言われている。

ちなみに、現在、乾繭の還付率は5%、生糸を含めた生糸類は13%(絹紡糸は14%)となっている。このような短期間に2回わたっての輸出企業の採算性向上支援策が今後どのように実を結ぶか注目されるところである。

\* (社)日本生糸問屋協会月報 20.11.17 第714号及び 20.12.12 第715号による。

## シルクの豆辞典 (19)

### 桑の薬効 (2)

#### — 桑根白皮 —

信州大学

名誉教授 嶋崎 昭典

小学校に入る前、昭和の始まり頃のことですが、祖母の使いで「きぐすりや（生薬屋）」さんと呼んでいた薬局へ乾燥したセンブリやゲンノショウコなどを買に行ったものです。時にはドクダミや實母散の時もありました。それを土瓶で煎じて飲まされたもので、私の子供の頃の薬といえばそうした煎じ薬が普通でした。あの独特の匂いも今はなつかしい思い出です。これから紹介する桑の薬も似たような使い方ですが、その中で最も効果のある桑の「煎じ薬」は桑の根っこから採取する「桑根白皮」と『神農本草』は伝えています。前号に続き『喫茶養生記』を中心に桑の薬効を紹介します。

#### 6. 中風

手足が心に従わない病気で、治療に針や灸をするのはよくありません。湯治も危険です。治療には桑粥と桑煎湯を服用します。髪や体を洗うときは、使う湯に桑を入れ1, 2桶で行水をし数日に一度入浴します。湯加減は、汗が出ない程度のぬるま湯にします。汗が出るような熱い湯にしますと食欲が落ちたりよくないことが起こります。

この病気の治療には、養生を続けることが大切です。

と、中風の治療には桑粥と桑茶を飲み、ぬるい桑の湯にゆっくり入り気長に養生する事を勧めています。

#### 7. 不食病

この病気はよくは分かりません。巻の上に「心臓に病あるときは、すべての味が不調和になって食べると吐き、時にはあらゆる食べ物を受け付けなくなります」とあることから心臓に関わる病気かもしれません。皮膚の色が悪くなり痩せ衰えます。「この病気には体を温めたり入浴したりするのは危険です。桑粥と桑煎を服用し続ければ次第に効き目が現れ回復します。あせって治そうとして灸や湯治の治療をすれば、病気はますます悪くなり回復しません」と述べやはり桑粥と桑茶の効用を説いています。

#### 8. 瘡病

この病気は癰〔よう、首などに出来るはれもの〕、とか疔（面ちょう）のような悪

---

---

質のはれものではないです。灸では治りません。牛膝（いのこづち）の根を突き砕いてその汁を腫れたところに塗り乾けばまた塗るのがいいです。そうすると、悪いところだけが一層はれ、そこから膿みが出て治ります。このときも桑粥と桑茶を服用するのがいいです。

## 9. 脚気病

中世では脚の病をすべて脚気と言っていたようで、いまのビタミンB<sub>1</sub>の欠乏病とは違うようです。「この病は夕食の食べすぎの病気で、朝は食べてもいいが午後は食を控えることです。これにも桑粥、桑茶を服用します。お茶の併用はなおいいです」といって、桑の薬効をあげています。

## 10. 桑粥の作り方、食べ方

『養生記』巻の下は、以上に述べた5種類の疫病のすべてに効く桑粥の作り方を次のように説明しています。

材料は一握りの黒豆と切り口1寸、長さ3寸〔小指ほどの大きさ〕の桑枝。この小枝を細かに裂いて、豆と一緒に3升の水に入れて煮ます。十分煮たら桑枝を除いて、米を一握り加え、浮き粥になるよう煮ます。煮る時期ですが、夏は真夜中から、冬は午前2時から煮始め夜明けに煮終わるようにします。長い時間かけ煮た桑粥はいいですが、急いで煮上げたのは薬になりません。

服する時は、塩を添えず少しづつ小分けに食べ、その後お菜を食べます。これを毎日続けます。怠ってはいけません。桑の小

枝はその年の新枝をつかいます。無いときは古い枝でもいいです。続けていくとだんだんと効果が現れてきます。堅粥はだめです。

と述べたあと、「何事も信心の心掛けが大事です」と付け添えております。

## 11. 桑煎の法

新しい桑枝を切り双六の賽のように小さく切って火にあぶります。木の角が焦げるほどにしたあと割って、それを3升から5升ほど袋にためておきます。煎ずるときは、水1升にその桑の木半合を入れてよく煎じた湯を服用します。桑木は生木のまま煎じてもいいです。桑煎茶は脚のむくみ、脚気（脚の気）、できもの、中風などの病気すべてによく効きます。

## 12. 桑根白皮

『神農本草』には桑根白皮（桑の根、少し黄味ぼい茶色の皮を薄く剥いたあとの白っぽい薄い皮）が薬種として記されているとのことです。また「凡そ使うには、十年以上の桑木の東畦に向かった嫩根（どんこん、若い根）を採り、銅刀で青黄っぽい茶色の薄皮一重を削り裏の白皮を取り、乾かして用いる。皮中の涎せんを去ってはならぬ。薬効は俱ともにその中にある」

と記されています。桑の薬効成分の多くがその白皮に含まれており、『本朝食鑑』には、桑根酒（桑酒）の造りかたとして、

「桑樹及び根皮を用いた濃き煎じ汁に米麴を入れて醸造する。古酒を造る法に同じ」

---

---

とあり、桑酒は薬酒で特に中風、五体の麻痺、脚気、咳に効くとあります。また、『言繼卿記』の天文22年（1553）4月5日の日記には

「申の刻ばかり、中御門より呼ばせられる間、罷り向かう。鯉なますの膾に桑酒あり。ことのほか沈酔す」

とあり、上流社会の人たちは、普段でも桑酒たしなを嗜んでいたようです。

昭和になると、血圧降下を目的にした桑

根酒製造法（特許 128115 号、1938 年）や桑根皮部より血圧降下剤の製造法（特許 140872 号、1940 年）に始まり桑根白皮の化学成分の分析が行われその実態が明らかにされつつあります。二千年以上の昔、そうしたことを突き止めていた古代人の知恵には驚きと共に深い敬意を表する次第です（図）。

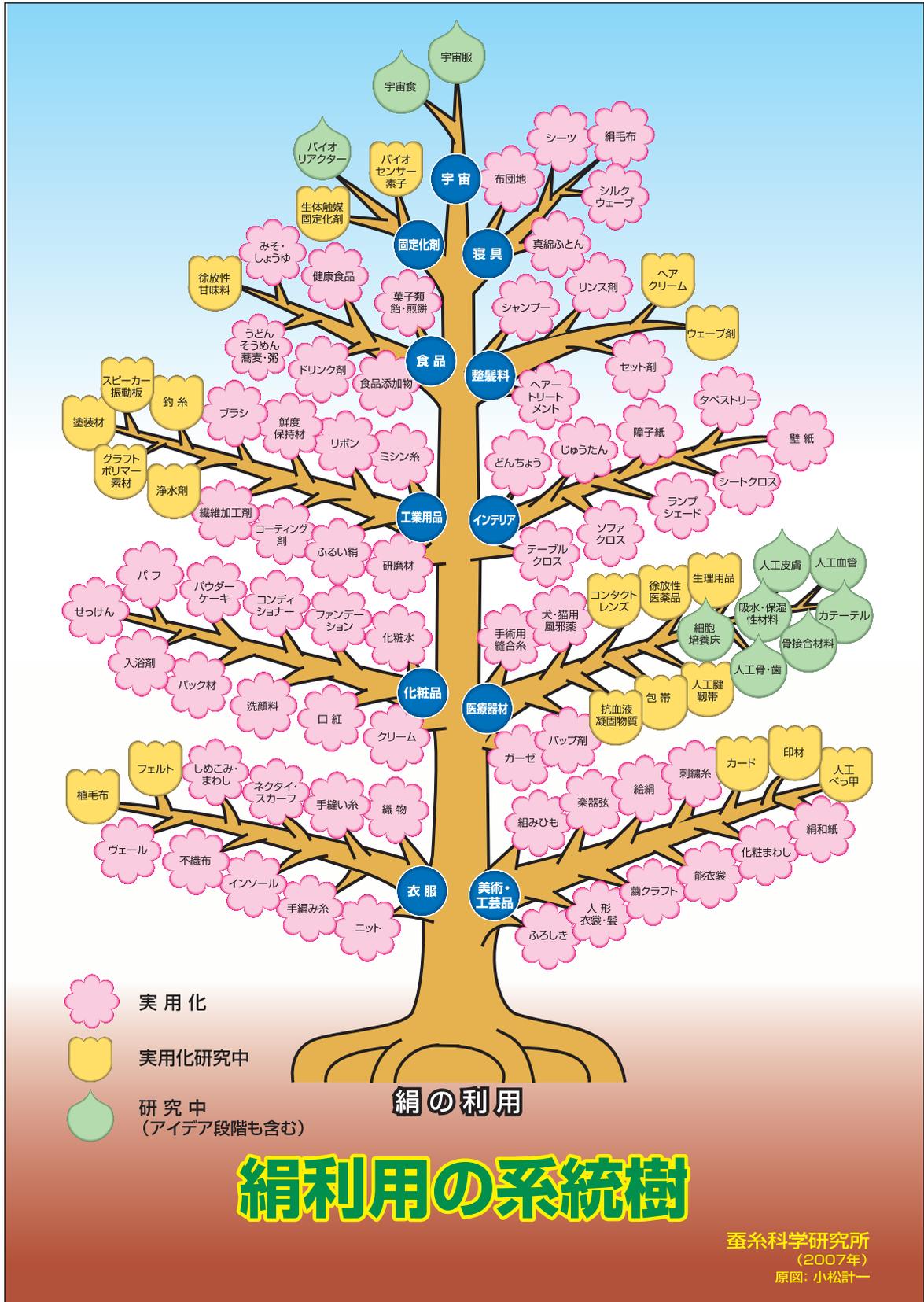


図 李時珍「本草綱目」を著す

# イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
日本絹の里第45回特別展 まゆクラフト作品展	カイコが糸を吐き始めてから繭を完成させるまで、約3日かかります。その間、カイコは繭の内側で何度も方向を変えながら、休むことなく糸を吐き続けます。そうして完成した繭は驚くほど丈夫で、独特の優しい丸形をしています。今回の展示ではそんな繭の丸みや、表面の凹凸など、繭の特性を活かして作るまゆクラフト作品を一般公募し、まゆクラフトの魅力を皆様にご紹介します。 観覧料：一般200円、大高生100円 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成20年12月6日(土)～21年1月17日(土)  AM9:30～PM5:00 (火曜日休館、12月27日～1月5日は休館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 <a href="http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp">http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp</a>  後援：農林水産省、群馬県、(財)大日本蚕糸会、中央蚕糸協会、(社)日本絹業協会、(社)日本生糸問屋協会等
かいこの観察記録展示会	シルク博物館では5月に小学校を中心に、教材用蚕種を配布し、夏休みには「かいこの自然科学教室」を開催しています。蚕を育てた小学校では蚕の飼育観察から生まれる子どもたちの感性豊かな飼育記録作品などの発表が行われています。シルク博物館ではクラスの仲間と協力し、アイデアを生かし工夫をしながら作られたこの観察記録作品を一堂に展示することにより、自然の営みの素晴らしさ、自然との共存することの大切さなどを再認識する機会とし、さらには学校相互の情報交換の場となるよう、総合的な学習を支援することを目的に本展示会を開催します。 入館料：一般500円(400円)、大高生200円(150円)、65才以上300円(200円)小・中学生は無料( )内は、団体割引(20人以上)の料金	平成20年11月22日(土)～21年1月12日(月) AM9:00～PM4:30 (年末年始12月28日～1月5日休館)	会場・主催・お問合わせ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町1番地(シルクセンター2F) (みなとみらい線 日本大通り駅下車3番出口)  Tel:045-641-0841 <a href="http://www.silkmuseum.or.jp/">http://www.silkmuseum.or.jp/</a>
真綿の講習会	次の世代に真綿づくりの大切な技術を伝えて行くために(財)真綿協会では真綿づくりの講習会を常設しています。ご希望の方はご参加ください。 ●申込方法 希望月日、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記して下記の申込先に希望日の2ヶ月前までにハガキでお申し込みください。 ●募集人数 各回5名様(機械紡ぎは3名様) ●講習料 無料(材料費千円がかかることがあります。) ●申込先 (財)真綿協会「まわたスポット」係 〒113-0031東京都文京区根津1-16-9 タウンシップ文京根津1102	平成21年スケジュール 1月15日(木)糸紡ぎ(機械) 22日(木)糸紡ぎ(機械) 29日(木)糸紡ぎ(機械) 2月5日(木)手紬糸 12日(木)手紬糸 19日(木)手紬糸 3月5日(木)手紬糸 12日(木)手紬糸 19日(木)手紬糸 26日(木)真綿の小物作り	会場：〒113-0031 東京都文京区根津1-16-9 タウンシップ文京根津904 「まわたスポット」  主催：(財)真綿協会  お問合わせ Tel:03-5814-4881
まゆクラフト作品展	全国から広く、まゆの自然な造形美、まゆの質感を活かした優れたまゆクラフト作品を募集、展示をします。まゆクラフトの製作技術の向上を図ると共に、全国同好のまゆクラフト製作者の「集いの場」となることを目的とします。 ●作品募集期間 平成21年3月1日から3月10日まで ●審査日 平成21年3月12日 ●審査発表日(授賞式) 平成21年4月25日(土)右記の会場にて  入館料：大人300円(200円)、子供100円(50円) ( )内は、団体割引(20人以上)の料金	作品展開催期間 平成21年4月25日(土)～6月14日(日)まで AM9:00～PM4:30 (水曜日休館)	会場・主催・お問合わせ 駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那482 Tel:0265-82-8381 Fax:0265-82-8380  後援：中央蚕糸協会、(財)大日本蚕糸会、(社)日本絹業協会、(社)日本生糸問屋協会、全国農業協同組合連合会

絹にはこんなにいろいろな使い道があります。



# 登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧

平成 20 年 12 月 15 日現在

登録番号	氏名	所属・役職名
19-001	島田 俊弘	中央蚕糸協会顧問
19-002	西 文秀	(社)日本絹業協会専務理事
19-003	中尾 敏明	(社)日本生糸問屋協会専務理事
19-004	道鎮 孝雄	(社)日本絹業協会事業部長
19-005	寛 文平	全国農業協同組合連合会副審査役
19-006	清水 重人	(財)大日本蚕糸会蚕糸科学研究所上席研究員
19-007	田中 幸夫	(財)大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
19-008	代田 丈志	(財)大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
19-010	遠田 寿之	松岡株式会社監査役
19-011	渋谷 健治	松岡株式会社シルク事業部課長
19-012	佐藤 信行	松岡株式会社常務取締役
19-013	小坂 橋 広行	碓氷製糸農業協同組合参事
19-014	今村 幸文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
19-015	萩原 和憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
19-016	宮坂 照彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
19-017	高橋 耕一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
19-018	服部 芳和	有限会社織道楽塩野屋代表
19-019	木下 幸太郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
19-021	門倉 重行	門倉メリヤス株式会社代表取締役
19-022	川瀬 久弥	樋口株式会社工場長
19-023	福永 吉穂	江一株式会社原糸事業部長
20-001	笹口 晴美	有限会社ミラノリップ代表取締役
20-002	薦田 智昌	ロード・ニジュウイチ株式会社代表取締役
20-003	西澤 厚男	中央蚕糸協会専務理事
20-004	佐藤 幸香	「香染」工房主宰
20-005	土井 芳文	絹小沢株式会社業務推進役
20-006	石田 克己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
20-007	深田 祥二	株式会社深田商店専務取締役
20-008	兵頭 眞通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-009	草間 健一	株式会社草間商会代表取締役
20-010	前田 進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-011	星野 伸男	新增澤工業株式会社代表取締役
20-012	昆野 和夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
20-013	阿部 末男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
20-014	俵 武司	株式会社千總副部長
20-015	原田 尹文	有限会社ハラダ代表取締役
20-016	西尾 仁志	有限会社西尾呉服店代表取締役
20-017	山根 敏男	松村株式会社繊維原料部部門長
20-018	都木 裕一郎	ニッケン通商株式会社生糸販売担当責任者
20-019	伊藤 公一	株式会社伊と幸代表取締役社長
20-020	北川 幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
20-021	本橋 伸夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
20-022	宮 忠光	株式会社伊と幸取締役副部長
20-024	野中 康雄	株式会社伊と幸和装部次長
20-025	亀井 修一	株式会社伊と幸営業部
20-026	宮沢 巳起代	有限会社塩野屋東京事務所スタッフ
20-027	東 宣江	群馬県蚕糸館主宰

(注) 標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

登録番号	氏名	所属・役職名
20-028	松澤 清典	松澤製糸所
20-029	渡邊 英夫	ネオシルク株式会社足利支店営業部長
20-030	金井 史郎	東北燃糸株式会社代表取締役社長
20-031	中谷 比佐子	株式会社秋櫻舎代表取締役社長
20-032	北丸 豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
20-033	松本 信孝	有限会社ハック代表取締役
20-035	片山 政明	山形県養蚕産地推進員
20-037	角谷 美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
20-038	原田 晶三	アンファンテリブル代表
20-039	福田 隆	株式会社龍工房代表取締役
20-040	清水 武彦	有限会社シンセイ（信州繭ブランド織物振興会会長）
20-041	梅田 幸平	有限会社幸和代表取締役
20-042	大嶋 啓子	株式会社 AWA - S 取締役
20-044	小此木 エツ子	多摩シルクライフ 21 研究会代表
20-045	境 京子	多摩シルクライフ 21 研究会
20-046	藤井 浩一	藤井絞株式会社取締役部長
20-047	松井 慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-048	大野 章	勝山織物株式会社
20-049	勝山 健史	勝山織物株式会社専務取締役
20-050	福地 圭一	丸八生糸株式会社
20-051	舞鶴 一雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
20-052	旭 利彦	ロード・ニジュウイチ株式会社
20-053	内藤 吉雄	艶金染工株式会社 F P 事業部（織物自販部）
20-054	前田 勝臣	株式会社日本クリエイティブセンター代表取締役
20-055	堀内 新也	農業、地域（繭）マイスター
20-056	林 太一	昭和燃糸工業株式会社
20-057	中野 豊	長崎絹業研究所製作担当
20-058	永岩 則子	長崎絹業研究所所長
20-059	宇野 浩嗣	京丹後市商工観光部丹後の魅力総合振興課主任
20-060	中尾 浩祥	株式会社丸万中尾取締役
20-061	小口 和興	株式会社帛撰代表取締役
20-062	吉川 幸四郎	有限会社吉川商事代表取締役
20-063	大竹 史朗	有限会社大竹商店代表取締役
20-064	加藤 洋次	株式会社加藤技術士事務所所長
20-065	田中 裕司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
20-066	黒田 秀樹	株式会社伊と幸和装部次長
20-067	秋山 眞和	綾の手紬染織工房主宰
20-068	山口 治之	丹波生糸株式会社代表取締役
20-069	藤井 美登利	川越むかし工房代表
20-070	藪内 猛之	株式会社ヤブウチ代表取締役
20-071	竹下 和利	有限会社寿光織本舗取締役社長
20-072	中島 洋一	玉川大学講師
20-073	渡辺 健次	渡文株式会社代表取締役専務
20-074	佐々木 祥一	株式会社川島織物セルコン
20-075	高橋 弘直	大門屋店主
20-076	田中 隆	田中蚕種株式会社代表取締役
20-077	堂本 正	田中蚕種株式会社営業部長
20-078	藪垣 茂仁	田中蚕種株式会社仕入担当

# 蚕糸関係博物館一覽

名 称	〒	住 所	電 話
<b>蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設</b>			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫”(ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹系紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ(株)内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館(絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業(株)内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ(株)周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
<b>展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設</b>			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館(松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
<b>その他関連施設</b>			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設(結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館(織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房(織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織元田勇(田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

# 統計資料目次

## <国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	37
(2) 養蚕業の概要	38
(3) 養蚕農家数の推移	39
(4) 収繭量の推移	40
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量（2007年）	41
(6) 蚕品種別蚕種製造数量（2007年）	42
(7) 生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況	43
(8) 生糸生産数量の推移	44
(9) 生糸の織度別生産数量の推移	45
(10) 生糸相場	46
(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	47
(12) 製糸工場の原料繭需給	48
(13) 器械製糸工場の操業状況	49
(14) 生糸在庫数量の内訳	50
(15) 蚕糸関係品目別輸入状況	51
(16) 絹糸原産国別輸入状況	52
(17) 織物の生産状況	53
(18) 絹人織織物製造業者の絹織物生産状況	54
(19) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	55
(20) 全国全世帯消費支出	56

## <海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	57
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	58
(3) 中国省別桑園面積、家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	59
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	60
(5) 中国のシルク類（生糸、絹糸、絹織物）の輸出状況	61
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	62
(7) ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況	63

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production トン t	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer kg	生糸 生産量 Raw Silk Production 千俵 1,000 Bale of 60kg	運転 工場数 Number of Mills 工場 Number	稼働率 Operation ratio %	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom 千台 1,000	絹織物 生産量 Silk Fabric Production 千㎡ 1,000 sq. meters
昭和50年 1975	248,400	91,219	367	333.9	123	87	311.3	156,494
55年 1980	165,590	73,061	441	267.6	105	81	279.2	143,708
60年 1985	99,710	47,274	474	158.6	67	87	212.5	107,499
平成3年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
4年 1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
5年 1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
6年 1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
7年 1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
8年 1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
9年 1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10年 1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11年 1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12年 2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13年 2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14年 2002	2,360	880	373	6.5	7	68	51.2	26,826
15年 2003	2,070	780	377	4.8	6	64	48.7	23,935
16年 2004	1,850	683	369	4.4	5	62	45.6	21,895
17年 2005	1,591	626	393	2.5	2	62	43.7	19,816
18年 2006	1,345	505	375	2.0	2	83	41.6	18,507
19年 2007	1,169	433	370	1.8	2	83	40.0	15,482
前年対比(%) 2007/06	86.9	85.7	98.9	90.0	100.0	100.0	96.2	93.4

資料・養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。

ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査である。

・絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況である。

Source: Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)

The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)

The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills.

## (2) 養蚕業の概要

## Outline of Sericultural Industry

項目 Item 年次 Year	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk- worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulber- ry per farm household raising silk-worm	Box of silk-worm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
対前年比 2007/06 (%)	86.9	88.9	85.7	87.2	103.6	85.7	102.0	100.0	98.9

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

## (3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)  
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
対前年比 2007/06 (%)		86.9	86.6	85.2	89.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、  
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (~2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002~2004) .  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005~) .

(4) 収繭量の推移  
Cocoon Production

項目 Item 年次 Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量(年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
対前年比 2007/06 (%)	85.7	83.7	90.2	85.5	98.9	96.5	106.3	95.5	102.8
構成比 (%)	100.0	40.4	25.4	34.2					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、  
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～).

## (5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量 (2007年)

Farm households rising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2007

項目 Item Each Prefecture	年計 Annual total			春繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養蚕 農家数	桑使用 面積	収繭量	養蚕 農家数	収繭量	養蚕 農家数	収繭量	養蚕 農家数	収繭量
	Farm households rising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households rising silk-worm	Cocoon production	Farm households rising silk-worm	Cocoon production	Farm households rising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩手 Iwate	34	32	11.8	24	2.9	34	4.5	34	4.3
宮城 Miyagi	41	42	12.7	28	4.5	27	4.1	32	4.2
山形 Yamagata	19	26	7.6	13	3.1	13	1.6	17	2.8
福島 Fukushima	114	179	56.6	98	19.5	85	16.4	100	20.7
茨城 Ibaragi	43	45	17.9	41	7.6	34	4.6	36	5.6
栃木 Tochigi	53	100	40.2	52	15.6	34	8.1	49	16.5
群馬 Gunma	471	515	185.6	439	78.0	275	46.9	429	60.7
埼玉 Saitama	114	92	38.0	109	15.5	81	9.7	97	12.8
千葉 Chiba	19	9	4.2	18	1.8	8	1.1	12	1.2
神奈川 Kanagawa	14	..	3.0	11	1.1	10	0.6	14	1.2
山梨 Yamanashi	43	28	13.3	36	6.4	15	2.4	33	4.5
長野 Nagano	54	34	15.9	48	6.3	42	4.4	39	5.3
岐阜 Gifu	38	15	5.3	30	2.6	14	0.8	25	2.0
徳島 Tokushima	31	12	6.0	29	2.9	17	1.3	21	1.8
愛媛 Ehime	22	20	8.1	22	3.0	18	2.6	18	2.5
熊本 Kumamoto	15	7	2.1	14	1.4	9	0.4	8	0.3
その他 Others	44	16	1.9	40	2.8	10	0.5	24	1.7
全国計 Total	1,169	1,172	433.2	1,052	175.0	726	110.0	988	148.1

資料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

## (6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2007年)

## Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2006年夏秋蚕用 for summer & autumn reeling		2007春蚕用 for spring reeling		2007夏秋蚕用 for summer & autumn reeling		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	3,280	40.3	1,770	22.1	2,400	40.1	7,450	33.6
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号	2,900	35.6			2,600	43.5	5,500	24.8
春 嶺 × 鐘 月			1,200	15.0			1,200	5.4
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,600	32.4			2,600	11.7
ぐ ん ま × 2 0 0	1,395	17.1	1,832	22.8	480	8.0	3,707	16.7
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.2	500	8.4	600	2.7
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	86	1.1	67	0.8			153	0.7
芙 蓉 × つくば・ね	100	1.2					100	0.5
鐘 光 × 黄 玉								
ぐ ん ま 黄 金	16	0.2	38	0.5			54	0.2
新 青 白			38	0.5			38	0.2
新 小 石 丸	283	3.5	222	2.8			505	2.3
小 石 丸	3	0.0	18	0.2			21	0.1
かいりょう × あけぼの								
改良しんあけぼの								
蚕 太			22	0.3			22	0.1
上 州 絹 星	77	0.9	118	1.5			195	0.9
合 計 Total	8,140	36.8	8,025	36.2	5,980	27.0	22,145	100.0

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

## (7) 生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況

## Raw Silk Supply and Demand Balance, Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡 数量	期末在庫 数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Produ- ction (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2002	6,521	31,702	—	37,265	25,955	28,089	124	12,248	6,843
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,964	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
生糸年度 Silk Year									
2002	5,953	30,510	—	35,462	26,794	28,150	154	11,747	6,986
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2007 - 8	136	1,277	—	1,169	8,193	1,774	31	975	567
9	151	1,262	—	1,569	8,037	1,935	55	987	563
10	153	1,438	—	1,397	8,231	2,222	57	1,011	604
11	150	1,357	—	1,320	8,418	1,989	42	1,121	586
12	146	885	—	1,369	8,080	1,667	21	1,125	721
2008 - 1	130	918	—	1,249	7,879	2,021	8	1,295	416
2	135	787	—	1,487	7,314	1,769	18	770	670
3	153	1,459	—	1,415	7,511	1,689	33	865	685
4	160	505	—	3,444	4,732	2,220	45	1,107	644
5	155	3,574	—	3,180	5,281	2,067	73	1,068	577
6	136	1,362	—	1,603	5,176	2,087	109	1,150	608
7	137	1,517	—	1,527	5,303	2,459	26	1,147	541
8	119	1,129	—	1,231	5,320	2,311	20	916	514
9	115	1,134	—	1,185	5,384	1,979	15	941	590
2008.1~9	1,240	12,385	—	16,321	5,384	18,602	347	9,259	5,245
2007.1~9	1,298	8,921	—	11,538	8,037	13,562	285	8,098	5,272
2008.6~9	507	5,142	—	5,546	5,384	8,836	170	4,154	2,253
2008.6~9	580	4,641	—	5,425	8,037	7,292	136	3,893	2,311

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for law silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (8) 生糸生産数量の推移

## Production of Raw Silk

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生糸及び玉糸 Raw Silk and Doupion Silk				繭品質評価機関 Cocoon Quality Grading Stations
	計 Total	器械製糸 Machine Reeling Mills	国用製糸 Domestic Raw Silk Reelers	及び & 器械玉糸 Machine Reeling Mills	
年月 Year & Month					
暦年 Calendar Year					
2002	6,521	5,617		904	..
2003	4,791	4,000		791	..
2004	4,387	3,634		753	..
2005	2,508	1,735		773	..
2006	1,956	1,417		539	..
2007	1,747	1,227		520	..
生糸年度 Silk Year					
2002	5,953	5,128		825	..
2003	4,517	3,735		782	..
2004	3,868	3,110		758	..
2005	2,024	1,329		695	..
2006	1,794	1,285		509	..
2007	1,762	1,231		531	..
2007 - 8	136	94		42	..
9	151	108		43	..
10	153	105		48	..
11	150	103		47	..
12	146	102		44	..
2008 - 1	130	91		39	..
2	135	91		44	..
3	153	105		48	..
4	160	115		45	..
5	155	112		43	..
6	136	106		30	..
7	137	108		29	..
8	119	91		28	..
9	115	91		24	..
2008.1~9	1,240	910		330	..
2007.1~9	1,298	917		381	..
2008.6~9	507	396		111	..
2007.6~9	580	407		173	..

資料：農林水産省生産局調査。

備考：1. 生糸年度は6月から翌年5月までである。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks：1. Silk year ranges from June to May of the following year.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (9) 生糸の織度別生産数量の推移

## Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	生 糸 Raw Silk					
		計 Total	18Denier以下 or finer 17/19	21Denier 20/22	27Denier 26/28	31Denier 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year							
2002		6,521	3	429	3,178	1,937	975
2003		4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004		4,387	2	471	2,389	948	581
2005		2,508	8	337	834	799	527
2006		1,956	4	240	531	653	523
2007		1,747	5	259	495	514	474
生糸年度 Silk Year							
2002		5,953	8	316	3,273	1,649	706
2003		4,517	7	334	2,689	955	530
2004		3,868	4	482	1,845	918	622
2005		2,024	6	261	510	726	518
2006		1,794	4	269	480	562	475
2007		1,762	5	276	443	495	537
2007 —	8	136	—	26	41	45	23
	9	151	—	14	54	39	45
	10	153	—	14	55	60	24
	11	150	—	29	36	36	48
	12	146	1	13	38	42	52
2008 —	1	130	—	14	26	40	50
	2	135	4	31	10	33	57
	3	153	—	29	29	47	46
	4	160	—	35	35	36	53
	5	155	—	21	40	38	56
	6	136	—	19	44	33	40
	7	137	—	22	40	26	49
	8	119	—	17	36	20	47
	9	115	—	25	35	30	25
2008. 1~9		1,240	4	213	295	303	423
2007. 1~9		1,298	—	203	366	376	350

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (10)生糸相場

### Raw Silk Quotations

#### 1 東京穀物商品取引所(生糸先物取引)

The Tokyo Grain Exchange (Raw Silk Futures Trading)

##### (1)商況 State of Market

10月: 月初1日は、値付けバイカイに始まり、10月限から1月限が月中の最高値段 3,400円を記録した。2日と6日には小口の売りに急落した。16日にも小口の売りに2・3月限が月中の最低値段 2,901円を記録する等続落した。24日は値頃買いに小反発した。28日の当月限納会は前日と同値の 3,400円と平穏に納まり、受渡数量は無しとなった。29日の新甫4月限は同鞘の 3,001円で発会して今月を終わった。

11月: 月初4日は、見送り気分強くバイカイで始まり、11月限が月中の最高値段 3,199円、1月限が月中の最低値段 2,990円を記録した。その後も値付けバイカイに推移した。25日の当月限納会は前日と同値の 3,199円で納まり、受渡数量は無しとなった。一方、先限は小口の買いにストップ高となった。翌26日の新甫5月限は同鞘の 3,141円で発会して今月を終わった。

##### (2)先物約定値段 Monthly Prices of Futures Contracts Traded

(Unit:JPY/kg)  
単位:円/kg

	限月	始値	高値	(日)	安値	(日)	終値
10月中	10月限	3,400	3,400	(1)	3,400	(1)	3,400
	11月限	3,400	3,400	(1)	3,199	(16)	3,199
	12月限	3,400	3,400	(1)	3,098	(16)	3,098
	1月限	3,400	3,400	(1)	2,990	(16)	2,990
	2月限	3,261	3,261	(1)	2,901	(16)	3,001
	3月限	3,261	3,261	(1)	2,901	(16)	3,001
	4月限	3,001	3,001	(29)	3,001	(29)	3,001

	限月	始値	高値	(日)	安値	(日)	終値
11月中	11月限	3,199	3,199	(4)	3,199	(4)	3,199
	12月限	3,098	3,098	(4)	3,098	(4)	3,098
	1月限	2,990	2,990	(4)	2,990	(4)	2,990
	2月限	3,001	3,001	(4)	3,001	(4)	3,001
	3月限	3,001	3,001	(4)	3,001	(4)	3,001
	4月限	3,001	3,141	(25)	3,001	(4)	3,141
	5月限	3,141	3,141	(26)	3,141	(26)	3,141

##### (3)出来高合計及び一日平均出来高 Total Trading Volume and Daily Average Volume

単位:枚/60kg

	出来高合計	一日平均
10月中	263	12
11月中	215	12

##### (4)受渡高 Delivery

単位:枚/300kg

	早受渡	期日受渡	計
10月中	0	0	0
11月中	0	0	0

#### 2 現物標準値の推移 Standard Price of Raw Silk

単位:円/kg (Unit:JPY/kg)

	東京市場 Tokyo Exchange Market		
	最高 High	最低 Low	平均 Average
平成20年10月	3,400	3,200	3,382
平成20年11月	3,200	3,130	3,192

資料:(社)日本生糸問屋協会 Source:Japan Raw Silk Dealers Association

## (11) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

## Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
対前年比 2007/06 (%)	87.7	91.7	100.0	86.3	65.0	59.4	87.5	93.6	86.4	95.5	—	100.0	90.0	200.0	85.5	92.2

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。  
ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”(arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)  
After 2000, estimated by Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

## (12) 製糸工場の原料繭需給

## Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total			うち 器 械 製 糸 工 場 Machine Reeling Mills		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks	受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year							
2002		1,559	2,150	775	1,366	1,822	708
2003		1,598	1,612	761	1,302	1,330	679
2004		1,291	1,500	553	1,039	1,228	489
2005		866	830	589	540	552	478
2006		600	646	541	405	445	436
2007		548	581	505	345	390	391
生糸年度 Silk Year							
2002		1,921	1,972	525	1,764	1,674	480
2003		1,477	1,554	448	1,162	1,273	368
2004		1,056	1,280	224	794	1,008	154
2005		839	673	390	531	419	266
2006		562	599	349	405	410	260
2007		502	583	266	344	388	215
2007 —	8	110	44	464	61	29	368
	9	35	50	448	33	34	366
	10	135	50	533	120	32	454
	11	3	50	486	3	33	424
	12	68	48	505	-1	32	391
2008 —	1	-1	43	461	-1	29	361
	2	-2	44	416	-2	28	332
	3	-8	52	356	-9	34	288
	4	14	51	319	0	35	253
	5	1	52	266	-1	36	215
	6	49	44	272	9	33	191
	7	117	45	343	104	34	260
	8	54	39	359	53	29	284
	9	28	37	350	28	28	283
2008. 1~9		252	407	350	181	286	283
2007. 1~9		342	433	448	223	293	366

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 総計は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。なお国用製糸及び玉糸製糸は乾繭重量調査のため、乾繭歩合42%にて生繭重量に換算した。

3. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. The grand total includes the material cocoons at the machine-reeling mills, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion silk producers.

In addition, reelers of raw silk for domestic use and doupion silk producers reported in dry cocoon weight, which was converted into fresh by dividing by 42%.

3. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

## (13) 器械製糸工場の操業状況

## Activities of Machine Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数 Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2002		7	607	414	68	290	207
2003		6	444	285	64	290	173
2004		5	426	262	62	292	165
2005		2	203	126	62	269	83
2006		2	114	94	82	266	59
2007		2	112	93	83	266	57
2007 —	2	2	112	93	83	21	60
	3	2	112	94	84	23	60
	4	2	112	93	83	23	56
	5	2	112	94	84	22	55
	6	2	112	92	82	23	55
	7	2	112	89	79	23	55
	8	2	112	92	82	21	55
	9	2	112	89	79	22	56
	10	2	112	92	82	24	60
	11	2	112	96	86	22	58
	12	2	112	94	84	22	57
2008 —	1	2	112	95	85	20	58
	2	2	112	94	84	22	57
	3	2	112	96	86	22	58
	4	2	112	100	89	23	60
	5	2	112	100	89	22	60
	6	2	112	95	85	23	60
	7	2	112	92	82	23	60
	8	2	112	91	81	21	56
	9	2	112	84	75	23	55

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

## (14) 生糸在庫数量の内訳

## Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2002	25,955	5,932	1,358	605	3,772	197	31,702	31,809	20,023
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
生糸年度 Silk Year									
2002	26,794	6,771	1,837	445	4,207	282	30,510	30,617	20,023
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2007 — 8	8,193	8,193	436	30	7,382	345	1,277	1,277	—
9	8,037	8,037	415	10	7,243	369	1,262	1,262	—
10	8,231	8,231	383	15	7,501	332	1,438	1,438	—
11	8,418	8,418	366	15	7,724	313	1,357	1,357	—
12	8,080	8,080	359	20	7,358	343	885	885	—
2008 — 1	7,879	7,879	350	15	7,193	321	918	918	—
2	7,314	7,314	327	10	6,607	370	787	787	—
3	7,511	7,511	321	15	6,774	401	1,459	1,459	—
4	4,732	4,732	310	15	3,664	743			
5	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
6	5,176	5,176	299	15	4,100	762			
7	5,303	5,303	312	20	4,245	726			
8	5,320	5,320	310	15	4,126	869			
9	5,384	5,384	302	15	4,179	888			

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and douppion reelers.

(15) 蚕糸関係品目別輸入状況(平成15年～20年9月)  
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2003～Sept 2008)

	単位 Unit	平成20年(2008)		平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	平成16年 (2004)	平成15年 (2003)	19年/18年 2007/06 (%)
		(9月) Sept	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupiou Silk	俵 Bales of 60kg	1,134	12,385	12,857.9	21,147.8	22,915.1	25,418.8	31,379.9	60.8
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	1,979	18,602	19,439.2	31,524.4	32,699.5	29,744.5	33,043.6	61.7
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	0	230.2	333.4	429.9	520.0	933.6	1,109.1	77.6
繭 Cocoon	kg	0	0	13,750	18,565	16,300	203,604	258,285	74.1
真綿 Floss Silk	kg	850	22,627	28,660	34,176	45,186	25,320	55,969	83.9
ペニール Peigne	kg	1,600	1,690	6,336	19,760	15,068	14,952	7,308	32.1
繭くず Waste Cocoon	kg	870	7,729	17,184	1,020	3,650	6,797	3,540	1,684.7
絹ノイル Silk Noil	kg	20,910	168,013	242,082	234,894	216,422	293,373	231,277	103.1
その他の絹くず Other Silk Waste	kg	13,405	154,475	238,507	255,951	319,072	267,341	346,689	93.2
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	37,635	354,534	532,769	545,801	878,398	607,783	584,783	97.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	29,644	399,614	608,270	756,065	847,200	781,454	832,514	80.5
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	15,153	130,755	117,265	208,913	202,901	244,557	260,508	56.1
絹織物 Silk Fabrics	m <sup>2</sup>	941,430	9,258,429	10,381,266	11,859,929	14,782,915	10,823,074	10,373,703	87.5

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

## (16) 絹糸の原産国別輸入数量

## Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2005		32,700	292	18,977	7,550	7	—	5,867	6
2006		31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3
2007		19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
生糸年度 Silk Year									
2005		36,113	143	21,337	8,983	18	—	5,621	8
2006		21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3
2007		22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
2007 —	2	997	—	634	245	2	—	116	—
	3	936	—	512	167	—	1	256	—
	4	1,317	21	783	398	1	—	116	—
	5	1,667	—	1,119	267	0	—	280	—
	6	1,711	—	1,134	409	4	—	164	—
	7	1,872	—	1,153	487	1	—	231	—
	8	1,775	—	1,154	466	1	—	154	0
	9	1,935	—	1,239	520	—	—	176	—
	10	2,222	—	1,224	638	1	—	358	—
	11	1,989	—	1,136	567	2	—	281	4
	12	1,667	—	930	371	0.4	—	365	—
2008 —	1	2,021	—	1,236	447	0	—	338	0
	2	1,769	—	853	746	0	—	170	0
	3	1,689	7	871	418	1.0	—	390	2
	4	2,220	—	1,187	660	5	—	366	2
	5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2
	6	2,087	23	1,302	600	—	—	161	1
	7	2,459	—	1,502	555	2	—	400	—
	8	2,311	—	1,275	753	1	—	282	—
	9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5
2008.1~9		18,602	30	10,475	5,438	10	—	2,637	12
2007.1~9		13,563	21	8,436	3,168	9	1	1,925	3

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 織物生産数量  
Fabric Production

(単位 : 1,000m)  
(Unit : 1,000sq. meters.)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	綿織物 Cotton Fabrics	絹織物 Silk Fabrics	絹紡織物 Spun Silk Fabrics	合成繊維 織物 Synthetic Fiber Fabrics	人絹織物 Rayon Filament and Acetate Fabrics	ビスコース スフ織物 Viscose sta- ple fabrics	毛織物 Wool Fabrics	麻織物 Bast Fiber Fabrics
暦 年 Calendar Year										
	2002	2,162,818	539,764	26,824	1,054	1,292,617	69,544	141,816	88,114	3,085
	2003	2,031,053	506,696	23,940	728	1,217,413	71,711	129,178	78,071	3,318
	2004	1,974,731	479,246	21,970	753	1,209,640	67,540	116,294	75,662	3,326
	2005	1,837,703	425,460	19,816	579	1,146,845	66,231	101,235	72,531	5,006
	2006	1,739,863	399,776	17,125	1,381	1,085,577	64,475	95,921	71,007	4,600
	2007	1,699,291	367,733	14,262	1,204	1,096,107	63,714	85,308	67,590	3,372
	2007 — 2	142,640	32,550	1,238	96	89,908	5,223	8,030	5,356	240
	3	146,310	32,627	1,251	96	92,850	5,408	8,091	5,476	510
	4	143,211	31,386	1,241	95	91,268	5,240	7,960	5,640	382
	5	139,291	31,264	1,150	95	89,177	5,183	6,262	5,912	247
	6	143,181	31,427	1,275	98	91,959	5,338	6,963	5,922	200
	7	145,873	31,229	1,200	97	94,825	5,438	6,909	5,958	217
	8	135,738	28,823	1,036	93	88,065	5,167	6,445	5,949	161
	9	138,732	28,451	1,209	125	91,069	5,191	6,904	5,591	192
	10	145,544	29,580	1,181	111	96,040	5,567	6,863	5,974	228
	11	143,797	29,178	1,217	98	94,956	5,419	6,924	5,748	257
	12	141,698	29,412	1,196	101	93,350	5,368	6,652	5,184	436
	2008 — 1	133,497	26,858	992	103	89,170	5,072	6,129	4,844	330
	2	140,032	28,237	1,193	97	92,787	5,473	7,220	4,799	225
	3	142,113	28,482	1,160	99	94,979	5,522	6,804	4,861	207
	4	140,452	28,121	1,093	96	93,616	5,555	6,518	5,100	351
	5	130,825	27,538	1,097	98	84,908	5,252	6,585	5,099	249
	6	132,071	27,348	1,155	101	85,497	5,301	6,916	5,548	205
	7	127,911	27,550	1,081	95	81,300	5,341	6,765	5,552	226
	8	118,624	25,934	929	88	75,333	4,665	6,394	5,100	182
	9	124,907	26,193	1,027	115	81,019	4,693	6,508	5,169	185
	2008. 1~9	1,190,432	246,261	9,667	892	778,609	46,874	59,839	46,072	2,160
	2007. 1~9	1,273,078	217,481	10,683	895	815,585	47,319	65,051	50,959	2,451

資 料 : 経済産業省調査。

備 考 : 交織を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Mixed fabrics included.

## (18) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics by Silk and Rayon Weavers

(単位：1,000㎡)

(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics								
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics	
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn		
年 月 Year & Month	暦 年 Calendar Year									
	2002	26,715	10,277	4,355	3,251	2,673	11,855	8,030	3,824	4,582
	2003	23,822	8,371	3,800	2,464	2,107	11,399	7,653	3,747	4,053
	2004	21,859	7,540	3,510	2,190	1,842	10,809	7,346	3,463	3,509
	2005	19,698	6,664	2,965	1,903	1,800	10,181	6,900	3,280	2,852
	2006	18,153	6,104	2,734	1,728	1,646	9,194	5,882	3,312	2,855
	2007	15,182	5,214	2,276	1,547	1,392	7,575	4,578	2,997	2,392
2007 —	2	1,312	427	193	123	111	679	422	256	206
	3	1,329	449	200	133	115	658	394	264	222
	4	1,317	443	198	125	120	664	409	256	210
	5	1,225	440	192	124	124	585	337	248	200
	6	1,354	461	194	139	129	683	428	255	210
	7	1,276	445	186	138	121	647	391	256	184
	8	1,108	392	169	124	99	554	315	239	162
	9	1,286	427	187	134	106	661	423	238	197
	10	1,262	423	189	122	111	629	377	252	210
	11	1,297	451	191	132	127	645	399	245	201
	12	1,274	435	187	136	112	639	400	238	200
2008 —	1	1,070	394	180	114	100	501	270	231	175
	2	1,269	422	183	129	110	644	407	237	203
	3	1,241	419	184	125	110	634	402	232	188
	4	1,171	419	189	122	108	585	360	225	167
	5	1,176	421	187	121	113	579	353	226	176
	6	1,240	429	190	125	114	630	403	227	181
	7	1,157	400	177	113	110	562	343	219	195
	8	998	337	152	95	89	507	301	205	155
	9	1,100	364	156	101	107	555	342	213	182
	2008. 1~9	10,422	3,605	1,598	1,045	961	5,197	3,181	2,015	1,622
	2007. 1~9	11,365	3,904	1,707	1,506	1,042	5,678	3,404	2,274	1,782

資 料：経済産業省調査。

備 考：単位以下四捨五入。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

## (19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹人絹織物製造業者の 絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
年 月 Year & Month								
暦 年 Calendar Year								
2002	26,715	89.6	1,179,219	95.1	229,272	83.7	998,239	79.1
2003	23,822	89.2	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,859	91.8	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,698	90.1	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,153	92.2	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,182	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2007 — 2	1,312	80.0	65,785	72.5	8,987	64.5	108,331	173.5
3	1,329	78.0	58,873	64.9	9,660	68.0	80,785	150.1
4	1,317	79.2	62,535	70.1	8,840	63.1	84,654	142.4
5	1,225	79.6	50,444	66.2	7,760	56.3	71,255	139.4
6	1,354	82.4	69,024	77.2	7,169	70.0	84,513	180.8
7	1,276	83.3	61,873	80.3	7,237	69.3	88,894	169.1
8	1,108	82.2	47,776	81.9	6,078	68.9	89,497	211.9
9	1,286	87.4	69,062	92.9	8,439	111.1	70,350	203.0
10	1,262	87.5	58,668	84.8	9,400	100.7	60,982	161.7
11	1,297	94.5	63,195	97.0	8,207	93.1	78,005	154.9
12	1,274	93.0	62,144	89.7	8,097	89.9	67,462	144.6
2008 — 1	1,070	92.4	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,269	96.7	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,241	93.4	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,171	88.9	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,176	96.0	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,240	91.6	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,157	90.7	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	998	90.1	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,100	85.5	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10			49,981	85.2	7,817	83.2		
2008.1~9	10,422	91.7	504,447	95.4	44,807	99.0	679,899	88.2
2007.1~9	11,365		528,553		45,240		771,270	

資 料：「絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量」は経済産業省調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

(20)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

区分	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円)	前年 比(%)	(円)	前年 比(%)	(円)	前年 比(%)	(円)	前年 比(%)	(円)	前年 比(%)	(円)	前年 比(%)
2003年	302,623	▲ 1.1	13,967	▲ 4.1	520	21.2	5,478	▲ 4.0	2,889	▲ 2.7	1,272	▲ 4.9
2004年	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005年	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006年	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007年	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2007年5月	293,231	0.4	13,359	▲ 0.6	160	▲ 75.1	4,558	▲ 0.1	3,206	6.5	1,226	0.8
6月	280,587	0.1	13,730	4.8	407	88.7	4,656	7.4	3,493	5.3	1,355	▲ 2.0
7月	291,632	▲ 0.1	13,234	▲ 3.0	391	▲ 14.7	4,692	▲ 0.5	3,341	▲ 6.7	1,231	▲ 9.8
8月	296,035	1.6	9,965	0.7	516	109.3	3,166	▲ 10.0	2,284	▲ 5.8	1,021	▲ 2.4
9月	281,448	3.2	9,858	▲ 4.0	199	▲ 31.0	3,579	▲ 4.0	2,125	▲ 7.0	986	3.0
10月	296,984	0.6	13,481	▲ 2.8	244	▲ 59.7	5,212	▲ 2.0	2,948	▲ 1.3	1,315	10.6
11月	282,836	▲ 0.6	14,292	▲ 0.5	504	185.8	5,773	▲ 9.0	2,692	0.1	1,460	10.9
12月	351,667	2.2	14,816	▲ 5.8	130	▲ 57.8	6,162	▲ 4.4	2,860	▲ 2.6	1,566	▲ 8.0
2008年1月	309,826	3.6	13,981	▲ 5.6	504	35.0	6,212	▲ 3.9	2,768	▲ 7.1	1,079	▲ 1.9
2月	275,565	0.0	10,215	▲ 2.7	308	▲ 41.6	4,351	▲ 6.4	1,864	▲ 1.9	894	11.2
3月	312,565	▲ 1.6	14,035	▲ 0.8	128	▲ 75.0	6,445	▲ 2.6	2,482	5.3	957	8.4
4月	310,695	▲ 2.7	12,778	▲ 4.1	86	▲ 52.5	4,965	▲ 7.7	2,509	▲ 3.9	984	▲ 2.5
5月	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7
6月	281,951	▲ 1.8	11,894	▲ 13.8	123	▲ 70.1	4,206	▲ 10.0	2,934	▲ 16.7	1,081	▲ 19.8
7月	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8月	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
9月	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10月	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6

資料:総務省「家計調査報告」。2人以上で構成させる8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

(1) 世界主要国の家蚕繭生産高

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2001年	2002年	2003年
日本	Japan	1,031 トン	880 トン	780 トン
中国	China	512,708	545,497	480,774
インド	India	140,000	128,000	117,000
ベトナム	Vietnam	22,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	9,916	10,238	9,966
タイ	Thailand	3,473	3,473	10,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	5,000	3,500	3,200
インドネシア	Indonesia	749	691	
トルコ	Turyey	47	100	169
ブルガリア	Bulgaria	52	50	0.3
ギリシャ	Greece	40	60	60
フィリピン	Philippines	17	28	23
主要国の計	Total	715,033	733,517	663,472

区 分		2004年	2005年	2006年
日本	Japan	683 トン	626 トン	505 トン
中国	China	547,091	621,461	739,715
インド	India	120,000	126,000	135,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,005	7,146	8,051
タイ	Thailand	10,650	10,650	10,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	2,543	
インドネシア	Indonesia			
トルコ	Turyey	169	170	350
ブルガリア	Bulgaria	20	42	65
ギリシャ	Greece	70	70	100
フィリピン	Philippines	22	14.4	16
主要国の計	Total	730,910	809,722	934,902

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド纖維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

## (2)世界主要国の家蚕生糸生産高

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2001年		2002年		2003年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	431	7,200	391	6,500	287	4,800
中国	China	62,560	1,042,700	73,585	1,226,400	83,763	1,396,100
インド	India	15,842	264,000	14,617	243,600	13,970	232,800
ベトナム	Vietnam	2,000	33,300	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,484	24,700	1,607	26,800	1,563	26,100
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,500	25,000	1,500	2,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	770	12,800	630	10,500	500	8,300
インドネシア	Indonesia	110	1,800	91	1,500		
トルコ	Turyey	7	100	17	300	28	500
ブルガリア	Bulgaria	7	100	7	100	0	0
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	3	100	3	100
主要国の計	Total	85,816	1,430,100	95,802	1,596,700	104,968	1,727,100

区 分		2004年		2005年		2006年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	263	4,400	151	2,500	119	2,000
中国	China	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000
インド	India	14,620	243,700	15,445	257,400	16,525	275,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,512	25,200	1,285	21,400	1,387	23,100
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,420	23,700	1,080	18,000
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	395	6,600		
インドネシア	Indonesia						
トルコ	Turyey	28	500	30	500	25	400
ブルガリア	Bulgaria	3	100	6	100	5	100
ギリシャ	Greece	4.5	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	1.1	0	1.6	0
主要国の計	Total	101,935	1,699,100	109,848	1,830,800	115,602	1,926,900

注1 日本は農林水産省特産振興課、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(3) 中国省別桑園面積・家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数  
Mulberry Farm Area, Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	桑園面積 Mulberry Farm Area (10,000ha、%)			家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT、%)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT、%)		
		2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05
山 西	Shanxi	0.82	1.10	135	3,913	5,602	143	196	175	89
上 海	Shanghai	0.03	-	-	408	-	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	9.08	8.98	99	100,539	117,800	117	18,580	20,186	109
浙 江	Zhejiang	7.04	7.40	105	74,838	85,122	114	20,530	19,051	93
安 徽	Anhui	4.67	5.47	117	33,900	37,596	111	3,890	4,038	104
江 西	Jiangxi	1.63	1.90	116	10,577	12,110	114	1,650	1,676	102
山 東	Shandong	5.00	5.00	100	36,845	39,700	108	6,800	6,253	92
河 南	Henan	2.20	2.73	124	8,600	13,390	156	300	318	106
湖 北	Hubei	2.53	2.79	110	13,583	15,706	116	650	536	83
湖 南	Hunan	0.61	0.69	112	3,663	4,100	112	45	50	111
広 東	Guangdong	2.53	5.33	211	34,300	68,750	200	1,100	1,138	103
広 西	Guangxi	9.40	12.00	128	148,460	185,000	125	6,600	8,020	122
重 慶	Chongqing	7.93	7.93	100	31,000	23,828	77	6,500	6,490	100
四 川	Sichuan	10.67	10.67	100	77,500	77,800	100	17,510	21,914	125
貴 州	Guizhou	0.58	0.63	108	1,199	1,254	105	-	-	-
雲 南	Yunnan	5.27	6.25	119	20,095	31,477	157	1,550	1,335	86
陝 西	Shaanxi	4.80	5.00	104	20,272	18,498	91	1,775	1,657	93
甘 肅	Gansu	0.62	0.65	104	537	613	114	-	-	-
寧 夏	Ningxia	0.28	0.33	120	413	475	115	30	59	197
新 疆	Xinjiang	0.50	0.73	145	819	895	109	55	-	-
内 蒙 古	Inner Mong	-	-	-	-	-	-	-	208	-
合 計	Total	76.20	85.57	112	621,461	739,715	119	87,761	93,105	106

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2005	2006	前年比 2006/05
702	710	101

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

## (4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1995年～2006年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	前年比 06/05(%)
北 京	Beijing													
天 津	TianJin													
河 北	Hebei	0.1	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				
山 西	Shanxi	0.7	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	150.0
内 蒙 古	Inner Monglia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai	0.3									0.0	0.0		
江 蘇	Jiangsu	18.6	9.2	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	116.8
浙 江	Zhejiang	12.2	8.4	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	113.3
安 徽	Anhui	4.0	2.4	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	111.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	1.6	0.8	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	109.1
山 東	Shandong	5.0	4.1	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	108.1
河 南	Henan	1.8	1.3	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	144.4
湖 北	Hubei	2.2	1.2	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	114.3
湖 南	Hunan	0.3	0.2	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	3.3	2.2	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	202.9
広 西	Guangxi	2.1	1.7	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	125.0
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing				2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	77.4
四 川	Sichuan	20.3	12.2	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	100.0
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	100.0
雲 南	Yunnan	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	155.0
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.8	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	90.0
甘 肅	Gansu										0.1	0.1	0.1	100.0
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia										0.0	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.6	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	100.0
合 計	Total	76.0	47.1	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	118.8

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5) 中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China

(2007年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2007年実績	07/06 (%)	2007年実績	07/06 (%)
1 インド	India	8,761,294	257.50	207,499	219.07
2 イタリア	Italy	984,361	85.90	26,280	76.46
3 韓国	South Korea	904,656	143.26	24,108	122.35
4 日本	Japan	776,997	123.68	21,534	96.31
5 ルーマニア	Romania	489,511	—	12,194	—
6 ベトナム	Vietnam	482,640	155.90	11,992	115.11
7 パキスタン	Pakistan	262,751	141.70	6,231	122.95
8 バングラデッシュ	Bangladesh	232,782	342.63	5,454	297.22
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	227,815	546.76	5,523	459.87
10 タイ	Thailand	77,551	396.86	2,064	373.24
11 その他	Others	552,798	197.73	14,239	174.45
合計	Total	13,753,156	204.91	337,118	169.93

中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China

(2008年1月～10月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07 (%)	2008年実績	08/07 (%)
1 インド	India	7,214,660	97.72	172,952	98.19
2 ルーマニア	Romania	995,865	293.09	26,995	314.30
3 イタリア	Italy	751,773	94.63	21,253	99.97
4 日本	Japan	625,324	97.37	18,174	102.00
5 ベトナム	Vietnam	610,047	157.80	16,082	166.03
6 韓国	South Korea	537,886	71.10	14,251	70.22
7 パキスタン	Pakistan	184,938	92.57	4,485	83.25
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	154,721	92.65	3,735	80.59
9 バングラデッシュ	Bangladesh	138,201	83.62	3,327	74.83
10 タイ	Thailand	66,657	99.49	1,714	94.44
11 その他	Others	499,379	110.65	13,183	112.60
合計	Total	11,779,451	103.15	296,151	105.10

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2007年実績	07/06 (%)	2007年実績	07/06 (%)
1 イタリア	Italy	689,599	80.35	20,953	75.19
2 ドイツ	Germany	502,424	109.64	17,232	105.11
3 インド	India	477,188	109.61	12,711	89.75
4 日本	Japan	446,723	58.08	13,973	48.77
5 パキスタン	Pakistan	370,953	114.06	10,268	101.93
6 タイ	Thailand	121,009	91.61	3,557	83.28
7 韓国	South Korea	116,707	200.41	3,745	194.04
8 トルコ	Turkey	42,935	133.41	1,729	143.72
9 インドネシア	Indonesia	35,227	136.63	0,904	110.78
10 ブラジル	Brasil	28,062	—	0,863	—
11 その他	Others	147,452	151.91	5,025	147.71
合計	Total	2,978,279	93.32	90,960	83.62

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07 (%)	2008年実績	08/07 (%)
1 イタリア	Italy	820,055	138.50	25,771	143.25
2 日本	Japan	566,877	157.83	18,050	159.59
3 インド	India	441,667	109.35	12,337	114.15
4 ドイツ	Germany	354,365	87.31	12,395	88.40
5 パキスタン	Pakistan	329,108	100.93	9,352	103.06
6 タイ	Thailand	192,995	257.84	5,830	254.35
7 トルコ	Turkey	52,773	136.00	2,006	129.05
8 インドネシア	Indonesia	40,492	147.47	1,120	157.09
9 韓国	South Korea	29,822	28.56	1,091	32.79
10 香港	Hong Kong	28,266	770.61	0,892	735.65
11 その他	Others	95,882	68.60	3,442	73.33
合計	Total	2,952,302	119.24	92,286	121.58

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics (>85%Silk)			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2007年実績	07/06 (%)	2007年実績	07/06 (%)
1 インド	India	73,950,336	136.02	172,531	124.92
2 イタリア	Italy	30,886,756	110.71	105,778	105.53
3 香港	Hong Kong	26,520,128	115.26	114,749	118.97
4 パキスタン	Pakistan	20,306,364	75.91	41,563	77.57
5 韓国	South Korea	19,590,513	85.01	73,636	86.47
6 日本	Japan	12,961,633	88.53	33,084	83.48
7 アメリカ	United States	8,833,028	89.97	51,711	93.50
8 シンガポール	Singapore	7,608,011	53.18	15,869	38.34
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	5,370,503	104.27	16,772	99.96
10 フランス	France	4,562,695	103.47	17,175	109.10
11 その他	Others	24,301,715	88.31	86,515	90.14
合計	Total	234,891,682	101.72	729,383	98.79

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics (>85%Silk)			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07 (%)	2008年実績	08/07 (%)
1 インド	India	50,414,424	78.94	120,147	79.93
2 イタリア	Italy	37,879,150	152.44	120,760	139.74
3 香港	Hong Kong	22,650,812	98.00	99,887	99.28
4 韓国	South Korea	17,195,090	99.19	67,508	104.31
5 パキスタン	Pakistan	15,356,810	111.35	32,152	114.36
6 日本	Japan	11,900,057	107.88	32,481	111.28
7 アメリカ	United States	7,331,974	92.70	41,999	90.96
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	6,206,473	151.57	20,124	158.87
9 シンガポール	Singapore	5,810,617	90.24	14,527	108.84
10 マレーシア	Malaysia	5,505,787	186.98	18,869	198.15
11 その他	Others	29,239,981	126.93	106,888	127.51
合計	Total	209,491,175	105.59	675,342	108.07

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移  
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)	暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985/86	11,353	1985	1,553,776	25,896
1986/87	10,575	1986	1,663,976	27,733
1987/88	11,830	1987	1,658,375	27,640
1988/89	11,470	1988	1,748,996	29,150
1989/90	15,829	1989	1,696,622	28,277
1990/91	17,221	1990	1,693,206	28,220
1991/92	17,586	1991	2,077,155	34,619
1992/93	19,134	1992	2,296,053	38,268
1993/94	18,260	1993	2,325,809	38,763
1994/95	16,260	1994	2,535,440	42,257
1995/96	15,368 (95%)	1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996/97	14,811 (96%)	1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997/98	14,594 (99%)	1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998/99	10,305 (71%)	1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999/2000	8,473 (82%)	1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000/01	9,916 (117%)	2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001/02	10,238 (103%)	2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002/03	9,966 (97%)	2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003/04	8,005 (80%)	2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004/05	7,146 (89%)	2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005/06	8,051 (113%)	2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006/07	8,617 (107%)	2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007/08	6,266 (73%)	2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008/09 〔見込み〕 〔Estimate〕	5,703 (91%)	2008 〔見込み〕 〔Estimate〕	1,223,305 (100%)	20,388

資料:ブラジル製糸協会

注:( )内は対前年比

[ ]内の見込みは2008年1月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of January 2008.

## (7) ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況

## Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn, and Secondary Silk Yarn in Brazil

Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg  
単位：ト、()内は60kg俵

区分		2003年実績	2004年実績	2005年実績	2006年実績	2007年実績	2008年予測 forecast	08/07(%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,503)	106 (1,770)	118 (1,971)	72 (1,202)	84 (1,403)	89 (1,486)	116.7
	輸出 Export	1,057 (17,652)	837 (13,978)	676 (11,289)	782 (13,059)	876 (14,629)	847 (14,145)	112.0
	計 Total	1,147 (19,155)	943 (15,748)	794 (13,260)	854 (14,262)	960 (16,032)	936 (15,631)	112.4
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,286)	71 (1,186)	92 (1,536)	74 (1,236)	78 (1,303)	88 (1,470)	105.4
	輸出 Export	431 (7,198)	516 (8,617)	454 (7,582)	392 (6,546)	274 (4,576)	276 (4,609)	69.9
	計 Total	508 (8,484)	587 (9,803)	546 (9,118)	466 (7,782)	352 (5,878)	364 (6,079)	75.5
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,789)	177 (2,956)	210 (3,507)	146 (2,438)	162 (2,705)	177 (2,956)	111.0
	輸出 Export	1,488 (24,850)	1,353 (22,595)	1,130 (18,871)	1,174 (19,606)	1,150 (19,205)	1,123 (18,754)	98.0
	計① Total①	1,655 (27,639)	1,530 (25,551)	1,340 (22,378)	1,320 (22,044)	1,312 (21,910)	1,300 (21,710)	99.4
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	64	85.7
	輸出 Export	217	386	295	241	256	253	106.2
	計② Total②	481	509	338	325	328	317	100.9
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	24.4	

資料：ブラジル製糸協会

注：依換算は、合計で一致しない場合がある。

Source: ABRASEDA

Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

**<http://www.silk-teikei.jp/index.html>**

シルクレポート 2009年1月号 NO. 4 平成21年1月1日発行

編集 / 発行  
(問い合わせ先)

**(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター**  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館5階  
TEL : 03-3214-3500  
FAX : 03-3214-3511  
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず